

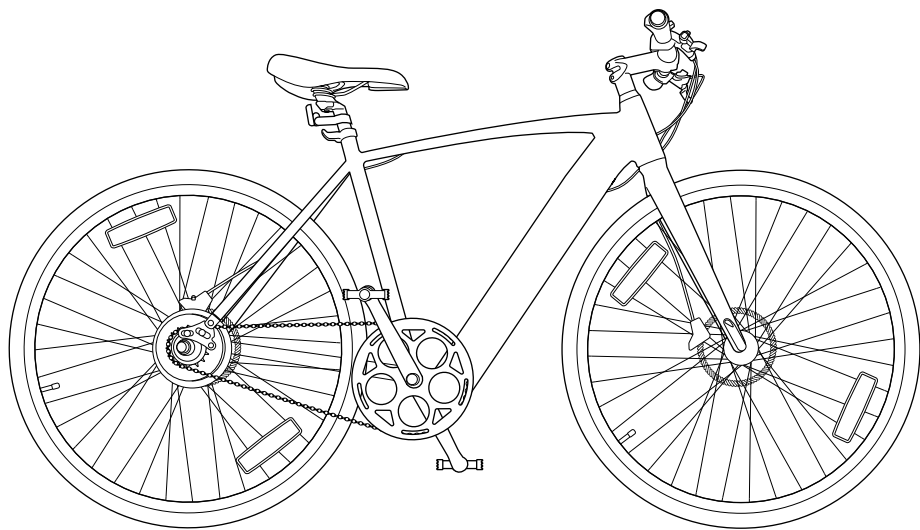


電動アシストシステム搭載スポーツタイプ自転車

# Musashi Velo CS01

ムサシ ベロ シーエス ゼロワン

## 取扱説明書



安全にご使用いただくため、お使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みになり、正しく理解した上でご使用ください。

本書を印刷して携行されるか、または本書が掲載された URL をスマートフォンのブックマークに登録、または本書ファイルをダウンロードしておくなどして、必要な際にはいつでも本書を参照できる状態にしておいてください。

# もくじ

---

<b>1. 最初にお読みください</b> .....	<b>3</b>
本製品について .....	3
同梱物の確認 .....	4
表記について .....	4
イラストについて .....	5
組み立てに必要な工具について .....	5
電動アシスト自転車について .....	5
走行可能距離（電動アシスト）について .....	5
各部の名称 .....	6
<b>2. 安全にお使いいただくために</b> .....	<b>7</b>
自転車の交通ルールとマナー .....	7
防犯登録について .....	9
自転車保険について .....	9
保証について .....	9
<b>3. 使用上の注意</b> .....	<b>10</b>
<b>4. 組み立てと調節</b> .....	<b>17</b>
ハンドル .....	17
前輪の取り付け .....	20
ハンドルステムの確認と固定 .....	23
ペダルの取り付け .....	24
サドル・後方リフレクターの取り付け .....	25
前方リフレクター（付属サービス品）の取り付け .....	29
<b>5. 本製品を使用する</b> .....	<b>31</b>
充電する .....	31
ディスプレイの基本的な使用方法 .....	34
ディスプレイの各種設定画面 .....	35
乗車前点検 .....	41
チェックリスト .....	44
乗りかた .....	46
バッテリーについて .....	48
チャイルドシートについて .....	49
こんな場合には .....	49
<b>6. お手入れと保管</b> .....	<b>50</b>
日常のお手入れ .....	50
注油について .....	50
保管について .....	51
廃棄について .....	51
定期的な点検 .....	52

---

# 1. 最初にお読みください

このたびは、Musashi Velo CS 01 をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

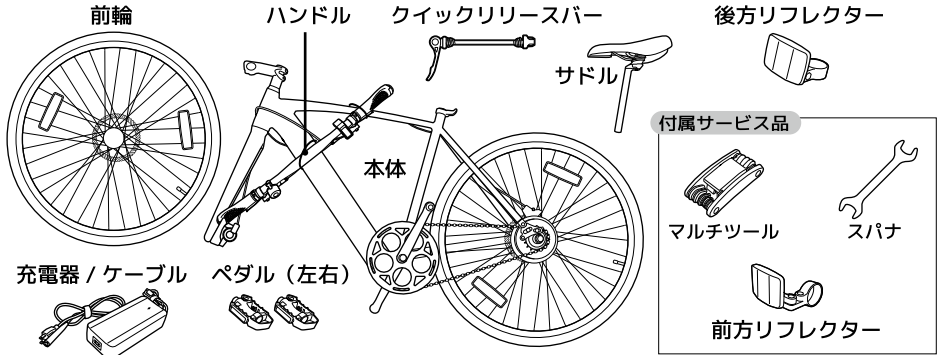
本製品は、電動アシストシステムを搭載している自転車（電動アシスト自転車）です。電動アシストシステムを搭載していない一般的な自転車に乗れる方ならば、どなたでもお乗りいただくことができますが、一般的な自転車とは操作の異なる点や注意点がありますので、実際にお使いいただく前に必ず本書をお読みいただいた上で安全にご使用ください。

## 本製品について

- 本製品は電動アシストシステムを搭載した一般乗車用の自転車です。基本的には電動アシストシステムを搭載していない一般的な自転車と同じものですが、操作方法や手順、注意事項が一般的な自転車と異なる部分があります。
- 本製品は一般乗車用として開発された電動アシスト自転車です。新聞配達やフードデリバリーサービスなどの業務用や競技用として使用することはできません。
- 本書を印刷するか本書の内容を確認できる URL をスマートフォンのブックマークに登録するなどして、本製品の使用にあたって不明な点があった場合にはいつでも参照できるようにしておいてください。
- 本製品を第三者に譲渡される場合は、印刷した本書を本製品に付属させるかまたは本書を確認できる URL が分かる状態にしてお譲りください。
- 安全のため、ヘルメットの着用を推奨します。
- お子さまがご使用される場合は、保護者の方が本書の内容を十分に理解した上で、本製品の正しい使いかた、自転車の正しい乗り方をお子さまにご指導ください。
- 本製品は、ハンドル幅が 60cm を超えているため、道路交通法第 63 条の 3 で規定されている普通自転車には該当いたしません。このため、歩道では本製品に乗らずに押して歩いてください。
- 自転車の使用に関わる法令、条例や、施設管理者が定める規則に従って使用してください。特に条例による定めは自治体によって異なる場合がありますので、お住まいの自治体とは関わりなく、本製品を使用する自治体の定めに従ってください。

## 同梱物の確認

本製品の梱包には、以下の物が入っています。不足しているもの・破損しているものがありましたら、ご購入先または巻末に記載の弊社カスタマー サービス部へご連絡ください。



**警告**

お子さまのケガや窒息、誤飲による重大な事故につながるおそれがあります。本製品の梱包に使用されている梱包材は、開梱後は直ちにお子さまの手の届かないところに廃棄してください。

## 表記について

本取扱説明書には、本製品をご使用いただく際に特にご留意いただきたい事柄に関して、その事柄が与える影響の度合いに応じて区分を行った上で、以下の通り、お客様への注意喚起を促す表記が行われています。

表 記	内 容
<b>危険</b>	この表記に付随している事柄は、取り扱いを誤った場合、使用者および第三者が死亡または重傷を負う切迫した事態の発生が想定されることを示します。
<b>警告</b>	この表記に付随している事柄は、取り扱いを誤った場合、使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されることを示します。
<b>注意</b>	この表記に付随している事柄は、取り扱いを誤った場合、使用者および第三者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定されることを示します。
<b>禁止</b>	安全のため、してはならない事柄を示します。
<b>ポイント</b>	この表記に付随している事柄は、知っておいていただきたい大切な事柄と、より便利、快適に本製品をご使用いただくための情報を示します。

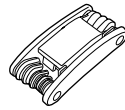
## イラストについて

本取扱説明書で使用されているイラスト、絵図は、よりわかりやすくするため特定の部位を強調したり、大きさの比率を変更しているため、現物や実際の状態とは異なる場合があります。また、製品の品質改善に伴う仕様の変更等により、形状等の変更が行われている場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 組み立てに必要な工具について

本製品は一部分解された状態で梱包されています。本製品の組み立てには、4mm 六角レンチ、15mm スパナ、マイナスまたはプラスドライバーが必要となります。本製品には、付属サービス品としてこれらの工具が入ったマルチツールとスパナが同梱されています。

### 付属サービス品



マルチツール  
4mm 六角レンチ  
マイナスドライバー  
プラスドライバー  
その他



スパナ (15/13mm)

## 電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は、自転車のペダルを踏む操作に、電動モーターによるアシストを加えてより軽い力で自転車を走行させることができます。

電動により自走するものではなく、また法令によってそのアシストに制限が加えられています。

### ●電動アシストの内容について（法令による定め）

速度：0km/h～10km/hまで ペダルを踏む力1に対して2のアシスト  
速度：10km/h～24km/hまで 速度上昇に従いアシストが弱まります  
💡ポイント 速度：24km/h以上 アシストなし（普通の自転車の状態）

- ・ 速度が24km/hを超えると、アシストは停止します
- ・ ペダルを踏んでいない時は、アシストは機能しません
- ・ バッテリー残量がなくなった場合や少なくなった場合、アシストは停止します。

## 走行可能距離（電動アシスト）について

1回の充電により使用可能な電動アシストによる走行距離は、おおよその目安として60km前後となります。充電がなくなった場合は、電動アシストのない状態で走行することができます。

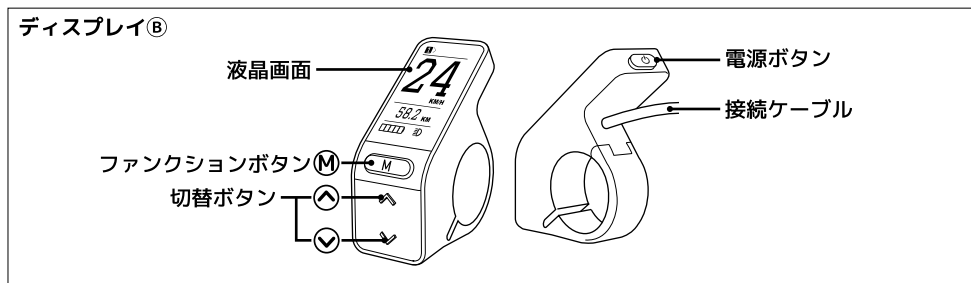
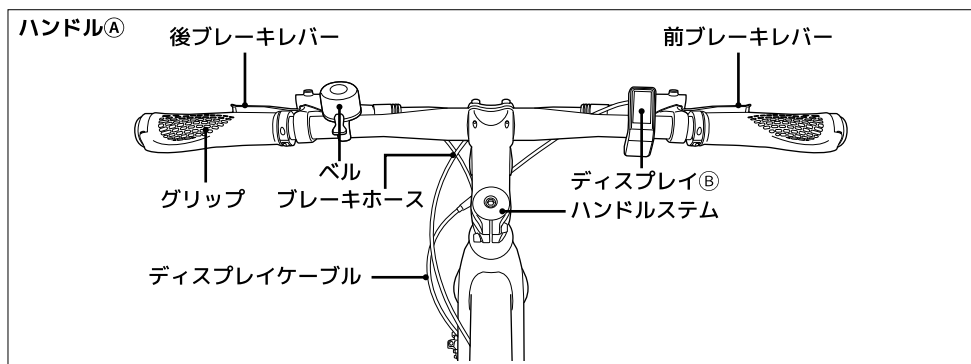
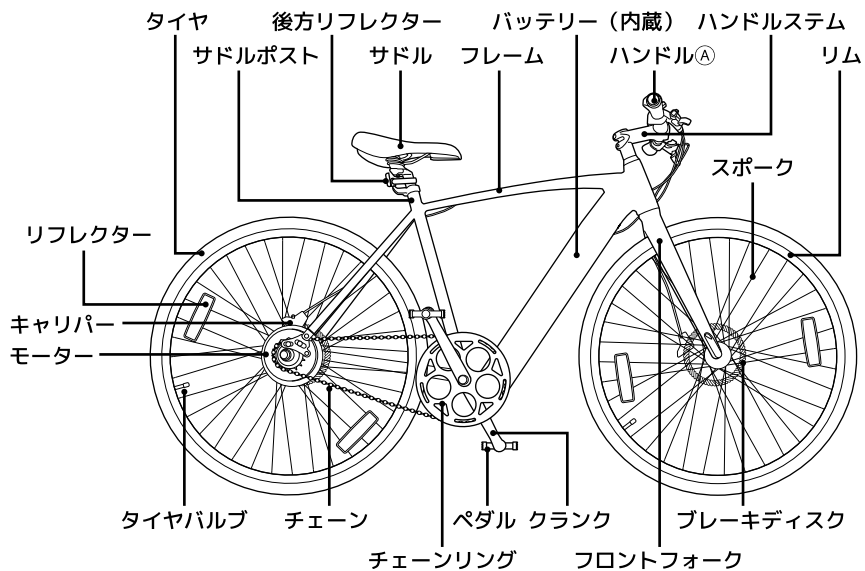
満充電時の走行可能距離は、以下の要因により変化します。

### 💡ポイント

- ・ 自然放電（充電後、バッテリーは徐々に放電します）
- ・ 走行時の天候、路面状況、勾配、積載重量
- ・ タイヤの空気圧の状態
- ・ 気温（冬場はバッテリーの特性により走行可能距離が短くなります）
- ・ バッテリーの使用または経時劣化、モーターの劣化

# 各部の名称

本取扱説明書では、本製品の各部や部品について、以下の通りの名称を用いて表記しています。本取扱説明書の記載内容とあわせ、必要に応じてご確認ください。

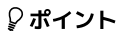


# 2. 安全にお使いいただくために

## 自転車の交通ルールとマナー

電動アシスト自転車を含む自転車は、道路交通法上の「軽車両」に分類され、「軽車両」の使用に関しては法律によりルールが定められています。このルールに違反すると、道路交通法で定められた罰則が適用される場合があります。

違反行為により2回以上の摘発を受けると、公安委員会より自転車運転者講習の受講命令が発せられ、この受講命令に従わなかった場合は5万円以下の罰金が科せられます。



ポイント

自転車運転者講習制度については警察庁のホームページをご参照ください

[npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html](http://npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html)

### 警告 必ずお守りください

- 踏切では一旦停止すること（警告音が鳴っていないこと、左右を確認してから踏切を渡ります）
- 道路標識に注意して、その指示を守ること
- 「止まれ」の標識があるところでは、停止線で一旦停止した上で周囲の安全を確認してから発進すること
- 発進時には常に周囲の安全を確認すること
- 駐輪禁止の場所には駐輪しないこと
- 携帯電話・スマートフォンなどを操作しながら乗らないこと
- 蛇行運転をしないこと
- 車道の左側を通行すること（路側帯がある場合でも右側通行は禁止されています）
- 交差点侵入時には、左右に注意すること
- 自転車横断帯がある場合は、横断帯を走行すること
- 直進または左折する場合、信号は車両用信号に従うこと（押して歩く場合は、歩行者用信号に従います）
- 右折する場合は2段階右折すること（正面の信号が青になったら直進して向こう側まで渡り、その後、右側の信号が青になるのを待って直進することにより右折します）
- 信号がない場合、以下の合図を行うこと。右左折の合図は30m程度手前から行います
  - ・右折>右手を地面に水平に、真横に上げることにより右折の合図を行います
  - ・左折>右手を真横に上げ、肘を曲げて直角にすることにより左折の合図を行います
  - ・停止>右手を真っすぐにして、斜め下を指すことにより停止の合図を行います
  - ・発進>右手を地面に水平に、真横に上げることにより発進の合図を行います
- 自転車の走行帯が指示されている道路では、走行帯を走行すること
- 歩道を走行しないこと。歩道では、本製品から降りて押して歩いてください
- 夜間走行を行う場合は、前照灯が必要です（本製品には付属しておりませんので別途お買い求めの上、自転車に装備してください）
- 本製品は一人乗り用です、二人以上で乗ることはできません
- 自転車の飲酒運転は刑事罰の対象となります
- 自動車の死角に入らないようにすること（特に大型車の左折時の巻き込み事故に注意してください）
- 駐停車している自動車の横を通過する際は自動車の様子を確認しながら、慎重に通過すること（急発進、ドアが突然開くなどのおそれがあります）

- 子どもの飛び出しに注意すること（公園や学校近くでは子どもの飛び出しに注意してください）
- 速度の出しすぎ、急ブレーキに注意すること
- 路面状態に注意すること
- 連続してブレーキを使用する場合は、ブレーキの状態に注意すること（長い下り坂で連続してブレーキを使い続けると、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。このような場合は小刻みにブレーキを操作するようにしてください。）
- 走行前に自転車に異常がないか点検すること

## [ 自転車運転者講習の対象となる違反行為 ]

以下の違反行為は、自転車運転者講習の対象となります。

- 信号無視【道交法第 7 条】
- 通行禁止違反【道交法第 8 条第 1 項】
- 歩行者用道路における車両の義務違反（徐行違反）【道交法第 9 条】
- 通行区分違反【道交法第 17 条第 1 項、第 4 項又は第 6 項】
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害【道交法第 17 条の 2 第 2 項】
- 遮断踏切立入り【道交法第 33 条第 2 項】
- 交差点安全進行義務違反等【道交法第 36 条】
- 交差点優先車妨害等【道交法第 37 条】
- 環状交差点安全進行義務違反等【道交法第 37 条の 2】
- 指定場所一時不停止等【道交法第 43 条】
- 歩道通行時の通行方法違反【道交法第 63 条の 4 第 2 項】
- 制動装置（ブレーキ）不良自転車運転【道交法 63 条の 9 第 1 項】
- 酒酔い運転【道交法第 65 条第 1 項】
- 安全運転義務違反【道交法第 70 条】
- 妨害運転（交通の危険のおそれ、著しい交通の危険）【道交法第 117 条の 2 の 2 第 11 号、第 117 条の 2 第 6 号】

## [ 自転車安全利用五則 ]

自転車を利用するにあたって、被害者・加害者にならない為に以下の「自転車安全利用五則」（2007 年 7 月 10 日警察庁交通対策本部決定）を遵守してください。

- ①自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ②車道は左側を通行
- ③歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④安全ルールを守る  
飲酒運転・二人乗り・並進の禁止・夜間はライトを点灯・交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤子どもはヘルメットを着用



## 防犯登録について

自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律第12条に基づき、自転車の利用者に対して防犯登録を行うことが義務付けられています。

防犯登録は、都道府県ごとに指定された団体が行います。

防犯登録には、本製品をどの販売店から購入したかを証明する証憑が必要となります。

購入方法により、必要となる書類が異なる場合がありますので、お住まいの自治体にお問合せいただき、お近くの自転車防犯登録所（自転車販売店）にて、手続きを行ってください。

### [ 防犯登録に必要なもの ]

- 自転車本体（本製品）
- 販売証明書（領収書等の本製品購入を証明する証憑類）
- 利用者本人の身分証明書（運転免許証・健康保険証・学生証など）

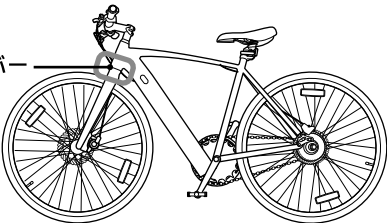
※マイナンバーカードの場合は情報漏洩を防止するため、専用カードケースに収納した状態で身分証明が行える表のみを提示するようにしてください。

詳細につきましては、登録する自転車防犯登録所にお問合せください。

防犯登録には、自転車固有の車体ナンバーが必要となります。

🔗 **ポイント** 本製品の車体ナンバーはフロントフォーク上部に刻印されています。

車体ナンバー



## 自転車保険について

万が一の自転車事故による損害を補償する自転車保険への加入をお勧めいたします。補償の内容は、各保険会社により異なりますので、保険会社にお問い合せください。

自治体、地域によっては、自転車用対人・対物賠償保険の加入が義務付けられている場合があります。お住まいの自治体とは関わりなく、加入が義務付けられた自治体や地域で自転車を使用する場合、自転車保険に加入する必要がありますのでご注意ください。

## 保証について

保証を受けるために必要となりますので、同梱されている保証書の内容をご確認の上、必要事項をご記入いただき、大切に保管しておいてください。

同梱の「付属サービス品」（マルチツール・スパナ・前方リフレクター）は、サービス品として付属しているものであり、保証の対象にはなりません。あらかじめご了承ください。

🔗 **ポイント**

## 3. 使用上の注意



### 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

走行前に必ず確認してください 転倒・衝突・接触事故のおそれがあります

#### 走行前に自転車の状態を点検すること

各部に異常がないこと、ガタツキ、ゆるみがないこと、ブレーキが正常に機能していること、ハンドル操作がスムーズに行えること、タイヤの空気圧が正常であることを確認してください。

#### 自転車を適切な状態に調節すること

ハンドルの高さ、サドルの高さを調節して、円滑にペダルを踏むことができるようにしてください。適切な状態については、以下を参照してください。

- ・自転車で乗った状態で両足のつま先が地面に付くこと
- ・ひじを軽く曲げた状態でハンドルを握れること
- ・ペダルを漕いだ際に膝がハンドルに触れないこと
- ・走行時、上体が軽く前傾する姿勢になること

#### 一般道路で走行する前に本製品の運転操作に慣れておくこと

公園や広場など、自動車の通行のない場所でよく練習してから一般道で走行してください。公園や広場では、他の方に迷惑が掛からないように、周囲の安全に十分に配慮した上で、練習するようにしてください。他の電動アシスト式の自転車をお使いの場合も同様に、本製品の操作に慣れてから一般道路で走行するようにしてください。

#### 安全な服装で自転車に乗ること

・長いスカートやすそが広がったズボンを着用している場合、走行中に車輪やチェーンに衣服が絡まったり、ペダルから足が外れるなどして、自転車が転倒するおそれがあります。同様にマフラーやロングコート、ショルダーバッグなども、車輪やチェーンに絡むおそれがありますので、走行前に必ず安全を確認し、調節、脱衣するなどしてください。

すその広がったズボンを着用する場合は、すそをバンドやゴムで留めておいてください。

・革底など底の滑りやすい靴、かかとの高い靴は、ペダルから足が外れるおそれがありますので、使用を避けてください。運動靴やサイクリングシューズのご使用をお勧めします。

#### 夜間走行時が想定される場合は前照灯を装備しておくこと

夜間の走行には前照灯が必要です。無灯火での走行は法令により禁じられています。前照灯のご購入や取り付けかたについては、販売店または前照灯のメーカーにご確認ください。

また、運転者および第三者の安全のため、昼間でも日光が遮られた暗い道やトンネルなどでは、前照灯を灯火するようにしてください。

走行時は必ずお守りください 転倒・衝突・接触事故のおそれがあります

#### けんけん乗りをしないこと

自転車の横に立ち、片足でペダルを踏んで助走をつけながらサドルにまたがる、いわゆる「けんけん乗り」は、転倒による事故につながるおそれがありますのでお止めください。電動アシスト自転車の場合は、自転車が思わぬ動きをするおそれがありますので特にご注意ください。

あらかじめサドルにまたがった状態で自転車を発進させるようにしてください。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

### 発進時にペダルを強く踏みすぎないようにすること

電動アシストシステムが働き、急発進するおそれがあります。一般的な自転車と異なり、電動アシスト自転車は、軽くペダルを踏むだけで発進することができます。

### 停車中はペダルから足を外しておくこと

ペダルに力が掛かると、電動アシストシステムが働き発進するおそれがあります。停車時にはペダルから足を外して前後のブレーキレバーを握り、ブレーキをかけるようにしてください。

### カーブを曲がる際には、曲がる方向側のペダルを下にしないこと

自転車の傾斜により、ペダルが地面に接触して自転車が転倒するおそれがあります。カーブでは手前からスピードを落としてゆっくりと曲がるようにしてください。

### ブレーキは前後同時に使用すること

片側だけでブレーキを使用すると、自転車が安定せずスリップしたり、ふらつくなどして制御を失い転倒するおそれがあります。ブレーキは前後を同時に使用するようにしてください。

### 急ブレーキ、急ハンドルをしないこと

自転車がスリップしたり、ふらつくなどして制御を失い転倒するおそれがあります。常に周囲に注意を払い、急ブレーキや急ハンドルの必要がないように走行してください。

### スピードを出しすぎないこと

衝突事故、転倒、接触により、運転者のみならず第三者を巻き込む重大な事故につながるおそれがあります。

### スリップしやすい場所では走行しないこと

積雪、凍結した場所、ぬれた金属板、グレーチングやマンホールの上、砂の多い道路など、滑りやすい場所では走行せず、自転車を押して歩いてください。

### 乱暴な運転をしないこと

急発進、急旋回、急ブレーキ、オートバイによる後押し、牽引、またアクロバットの様な運転は大変危険です。絶対にお止めください。

### 乗り降り時は自転車が停止した状態で行うこと

自転車を動かしながら飛び乗ったり、自転車が完全に停止する前に飛び降りたりすると転倒するおそれがあります。乗り降り時は、自転車が完全に停止している状態でブレーキをかけて行ってください。

### 雨天時、悪天候時は細心の注意を払ってください

雨天時は路面が滑りやすくなり、かつブレーキの効きも悪くなります。スピードを落としてブレーキを併用しながら慎重に走行してください。また風が強い日、豪雨、降雪など気象条件によっては、自転車を使用せず、押して歩くようにしてください。

### 片手での運転はしないでください／傘を使用しないでください

傘を持つ、荷物を持つなどして、運転しないでください。自転車の運転中は両手でしっかりとハンドルを握り、いつでも前後のブレーキを操作できるようにしてください。風に煽られて自転車が転倒したり制御を失う可能性が高いので、絶対に傘をさしての運転はお止めください。

また、自転車で傘を固定しての使用もお止めください。風に煽られて自転車が転倒したり制御を失ったりするほか、傘が外れて周囲に危険をおよぼすおそれがあります。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

### スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤーなどを使用しないこと

走行中にスマートフォン等を操作しないでください。また周囲の音を確認できず大変危険ですので、音を出す出さないに関わらず、ヘッドフォン、イヤフォンを装着しての走行はおやめください。

### ハンドルや手に荷物などをかけて運転しないこと

荷物が走行中に他の物にあたり制御を失ったり、車輪に荷物が絡まるなどして自転車が転倒したり制御を失ったりするおそれがあります。

### ペットをつないで運転しないこと

ペットを繋ぐリード（ひも）が自転車に絡まったり、ペットが自転車に接触するなどして大変危険です。

### スポークの間に物を挟まないこと

スポークの間にボールなどの物を挟むと、走行中に物が突然外れて車輪に巻き込まれるなどして自転車が転倒したり制御を失うおそれがあります。

### 車体の空間に物を差し込まないこと

ステッキや傘、釣り竿、ゴルフクラブ、テニスラケットなどの物を車体フレームの隙間に差し込むなどすると、走行中にこれらの物の位置がずれて、車輪に絡まるなどして自転車が転倒したり制御できなくなるおそれがあります。

### 車輪に巻き込まれるおそれのある物に注意すること

ワイヤ錠などの長さのある物、ひも状の物などを車輪近くに固定したり、つるしたりしないでください。固定が外れるなどして、車輪に巻き込まれると自転車が転倒したり制御できなくなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

### 段差のある場所では走行しないこと

段差の乗り越え、降りる行為は、自転車から降りて行ってください。走行しながら段差の乗り降りは自転車の故障や転倒につながるおそれがあります。

### 路面上の異物を踏まないこと

路上に落ちている、飲料の缶やペットボトル、ゴミ、落下物などを不用意に自転車で踏まないでください。自転車が乗り上げて転倒したり制御を失うおそれがあります。

### 二人乗りはしないこと

本製品は、1人乗りの自転車です。二人乗りは道路交通法により禁止されています。また、本製品はチャイルドシート（幼児用座席）には対応しておりませんので、取り付けて使用しないでください。

### スタンドの取り扱いに注意すること

走行中にスタンドが地面に接触して転倒したり、スタンドが歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。本製品にスタンドを取り付けて使用する場合、スタンドの取り扱い方法を誤らないように注意してください。スタンドの取扱説明書や注意事項を確認して、正しくお使いください。

### ハブステップなど自転車の側面に突起する物は取り付けないこと

自転車の後輪の横に取り付けるハブステップは、突起物となり、歩行者などに接触して思わぬ事故につながるおそれがあります。ハブステップの他、自転車に取り付けるバッグなどにおいて、自転車の側面に突起する物も同様に取り付けしないでください。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

### 異常を感じたら乗らないこと

自転車本体、電動アシストシステム、ディスプレイに異常がある場合は、使用を中止してください。また走行中にこれらの異常を感知した場合は、ただちに使用を中止して自転車を押して歩いてください。修理、補修については本書末尾に記載の弊社「カスタマー サービス部」までご連絡ください。

### お子さまが乗る際には、自転車用のヘルメットを着用すること

安全のため、13歳以下のお子さまが自転車に乗る際には、自転車用のヘルメットを着用させてください。お子さまのヘルメット着用は、道路交通法 第63条の11により保護者に対する努力義務として定められています。自治体、地域によっては、条例により着用が義務化されている場合があります。

自転車の使用・保管・お手入れにあたって 転倒・故障・ケガのおそれがあります

### 自転車を踏み台として使用しないこと

高所の物を取る際などに、自転車を踏み台にはしてはいけません。自転車が転倒するおそれがあります。

### 電動アシストシステム、制動部（ブレーキ）に注油しないこと

故障の原因となります。また、ブレーキへの注油は自転車の制動性能を著しく低下させますので、絶対に注油しないでください。

### 電動アシストシステムの分解、改造を行わないこと

異常動作により、自転車の制御ができなくなるおそれがあります。ディスプレイ、バッテリー、モーター、コントローラーを含む電動アシストシステムは絶対に分解したり、改造したりしないでください。

### 自転車を改造しないこと

自転車の改造は破損や故障につながるおそれがあります。破損や故障の内容によっては、走行中の思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ディスプレイを改造、改変しないこと

ディスプレイには、本製品専用の電動アシストシステムを制御するプログラムが書き込まれています。ディスプレイは本書の指示に従って正しくお使いください。本書の指示にないディスプレイの設定変更やプログラムの書き換えは重大な事故の原因となります。またプログラムは著作権で保護されており複製を禁止しております。

### 本製品を構成する部品の転用をしないこと

ディスプレイ、バッテリー、モーター、コントローラーを含む電動アシストシステムおよび本製品のその他の部位、部品を取り外して、他の自転車やその他の目的で使用しないでください。これらの行為により発生する事故や故障、事象に関しては保証の対象外となります。

### 車輪やチェーン、ペダルなどの回転部に不用意に手足、物を近づけないこと

回転する車輪やチェーンなどに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。特にお子さまには注意してください。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

充電・バッテリーの取り扱いにあたって 感電・発火・火災・爆発・故障のおそれがあります

### 専用充電器を使用すること

同梱の充電器以外の充電器を使用しないでください。

### 分解・改造・加工しないこと

バッテリー、充電器を分解したり改造したりしないでください。

### バッテリーの接続部を短絡（ショート）させないこと

バッテリーの接続部（充電端子）に金属などの通電性のあるものを近づけないでください。

### バッテリーを取り出さないこと

本製品のバッテリーは、自転車のフレーム内に内蔵されています。むやみに取り出したりしないでください。バッテリーの交換は、適切な設備のある場所で経験者による交換をお勧めします。

### バッテリー内臓部に衝撃を与えないこと

自転車のフレームのバッテリー内臓部に強い衝撃を与えないでください。フレームのバッテリー内臓部の外観に凹みなどの異常がある場合は、本製品を使用しないでください。

### 異臭などの異常を感じた場合は使用を中止して安全を確保すること

バッテリーから異臭がするなどの異常を感じた場合は、本製品の使用を中止してください。異常を感じた場合は、発火のおそれがありますので、自転車を屋外の安全な場所に移動させてください。

### バッテリーが未使用時に高温になる場合は安全を確保すること

充電時や本製品使用時以外の未使用時にも関わらずバッテリーが高温になる場合は、バッテリーに異常があり、発火のおそれがありますので、自転車を屋外の安全な場所に移動させてください。

### 充電時に異常を感じた場合は、充電を中止して安全を確保すること

充電時に異臭や、煙が出るなどの異常が発生した場合は、直ちに充電を中止して、自転車を屋外の安全な場所に移動させてください。

### バッテリーに水をかけたり、水中に投入しないこと

本製品は自転車のフレーム内にバッテリーを内蔵しています。本製品は雨天でも走行できるように、一定の防水処理をしておりますが、むやみに水を掛けたり、水中に投入したりしないようにしてください。

### 水抜き部をふさがないこと

本製品のフレームのバッテリー内臓部には、フレーム内に侵入した水分を抜くための水抜き部が設けられております。水抜き部がふさがれると水分が抜けなくなりますので、絶対にふさがないようにしてください。また、本製品の使用時および充電時には、必ず水抜き部の状態を確認して、異物や汚れなどが付着していないことを確認してください。

### バッテリーを火中に投入したり、過熱しないこと

本製品は、自転車のフレーム内にバッテリーを内蔵しております。本製品をストーブなどの熱源の近くに置いたり、熱風の出る場所に置かないようにしてください。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

### 充電器とバッテリーの接続部（充電端子）を清潔に保つこと

接続部に汚れ、ぬれ、があると充電が正常に行えないばかりか、発火等に繋がるおそれがあります。充電時に限らず、充電器とバッテリーを接続する充電端子は常に清潔に保つようにしてください。

### 充電器とバッテリーの接続部（充電端子）をぬらさないこと

充電端子に水分が付着している場合は、水分をふき取り完全に乾燥させてから充電するようにしてください。

### バッテリーを他の機器に使用しないこと

本製品のバッテリーは、本製品専用です。他の電気機器には使用しないでください。

### 充電器を他の機器の充電に使用しないこと

本製品に同梱の充電器は、本製品専用です。他の機器やバッテリーの充電には使用しないでください。

### 充電器の接続部を短絡（ショート）させないこと

充電器の接続部（充電端子）に金属や電池などの通電性のあるものを近づけないでください。

### ぬれた手で充電器に触れないこと

ぬれた手で充電器を触ったり、充電作業を行わないでください。電源プラグやコネクタ部をぬれた手で触ると感電するおそれがあります。

### 充電器を水でぬらさないこと、屋外で充電しないこと

充電器は、屋外では使用しないでください。屋内の水のかかるおそれのない場所でご使用ください。

### 電源プラグはしっかりと差し込むこと

充電時に電源プラグを差し込む際には、奥までしっかりとコンセントに差し込んでください。しっかりと差し込まれていないと、ショートしたり発熱、発火、感電のおそれがあります。

### 充電器のコードを束ねて使用しないこと、コードをはさんだり、コードの上に物を置いたりしないこと

充電器のコードは、束ねずに使用してください。また、コードをクリップなどではさんだり、コードの上に物を置くなどすると、コードが破損して感電や火災の原因となります。充電時に限らず、保管中も同様にしてください。

### コード、電源プラグ、充電端子に異常がある場合は使用しないこと

充電前には、必ず充電器のコード、電源プラグ、充電端子に異常、損傷がないことを確認してください。

### 充電器に衝撃を加えないでください

充電器を落下させる、踏むなどして衝撃を加えないでください。

### 充電器は、家庭用コンセント以外では使用しないでください

業務用や電気自動車の充電用など、家庭用以外の電源から給電しないでください。

### 定格を超えた使用はしないでください

たこ足配線により定格を超えると発熱、発火、火災のおそれがあります。



## 警告

使用者および第三者が死亡または重傷を負うことが想定されます。

### 充電中に充電器にカバーをしたり、周囲に可燃性のものを置かないこと

充電中は、通気性を確保してください。布や可燃性の物を充電器に接する場所に置くと、発火するおそれがあります。

### ガソリンや灯油などの引火物、引火性ガスのそばで充電しないこと

発火、火災、爆発のおそれがあります。

### 充電器は正しく保管してお手入れを怠らないこと

電源プラグ、充電端子部に汚れや酸化があると絶縁不良につながるおそれがあります。充電器は常に清潔を保ち、高温多湿を避けて保管するようにしてください。

### お子さまやペットのいる場所で使用しないこと

お子さまやペットの思わぬ行為、行動により、重大な事故につながるおそれがあります。充電中はお子さまやペットなどを近づけないようにしてください。

### お子さまの手の届く場所で保管しないこと

充電器は、お子さまの手の届かない場所で保管してください。

### 充電時以外は充電器をコンセントから外しておくこと

充電器をコンセントにつないだままにしないでください。

### 充電器とバッテリーを接続したまま放置しないこと

充電完了後は、すみやかに充電器とバッテリーの接続を解除してから、充電器をコンセントから抜いてください。満充電後に充電しつづけると、バッテリーの寿命を縮めるばかりか、発熱、発火、火災のおそれがあります。また、故障の原因となりますので、充電器をコンセントから外した状態で、充電器をバッテリーに接続したまま放置しないでください。



# 4. 組み立てと調節

本製品は組み立てが必要です。ハンドル、前輪、ペダル、サドル(後部リフレクター)、を取り付けた上で、バッテリーを充電して使用します。



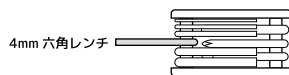
**注意** 各部位は、梱包時に保護のため緩衝材、結束バンドで固定されています。ケガをしないよう、また本製品の表面にキズを付れたりワイヤーやホースを切断したりしないように注意して開梱してください。カッターナイフでの開梱はおやめください。

## ハンドル

ご購入時、ハンドルは本体側面に固定されています。ハンドルを取り外す前にハンドルステムを正しい向きに調節してください。ハンドルは、ハンドルステムを正しく調節した後で本体側面から取り外して取り付けます。

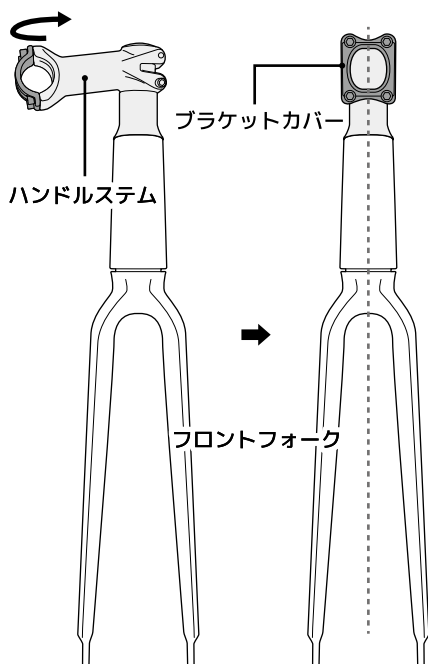
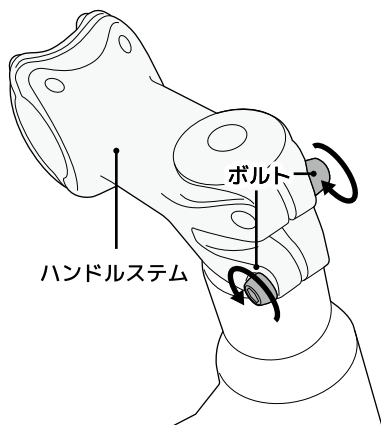
### [ ハンドルステムの調節 ]

ハンドルステムは、本体に取り付けられています。以下の操作を行い、ハンドルステムを回して正しい向きにします。



#### 01

六角レンチ(4mm)を使用して、ハンドルステムを固定している2本のボルトをゆるめます。ボルトはゆるめ過ぎないようにします。手で押して回さないとハンドルステムが動かない程度にゆるめてください。



#### 02

ハンドルステムを回転させて、フロントフォークに対してハンドルステムのブラケットカバーが垂直になるようにします。

#### ポイント

ハンドルステムは、自転車の直進方向に対してまっすぐに調節する必要があります。前輪の取り付け後、再度向きを確認してから、ボルトをしっかりと締めて固定します。

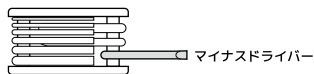
## [ ハンドルの取り付け ]

ハンドル付属のブレーキレバーは、ブレーキホースを通じて前後のキャリパーにあらかじめ接続されています。ハンドルの取り外し時、ハンドルを無理に引っ張らないでください。



**注意**

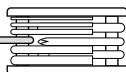
前輪を取り付ける前に、前ハンドルレバーを握らないでください。キャリパー内のブレーキパッドが固着して前輪が取り付けられなくなります。誤ってブレーキパッドが固着した場合は、固着部分にマイナスドライバーなどの平らで細い物を差し入れてブレーキパッドを分離してください。



### 01

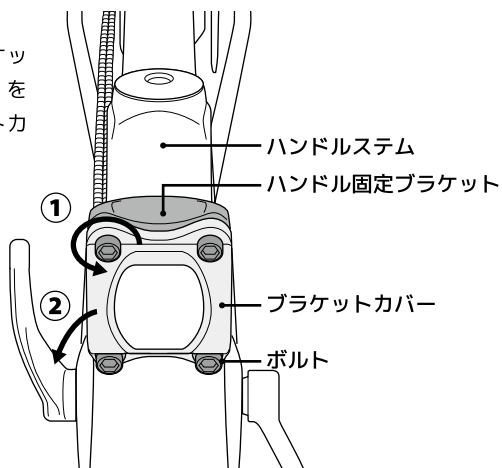
ハンドルステム前端に留められている、ブラケットカバーを取り外します。①ボルト（4か所）を六角レンチ（4mm）でゆるめて、②ブラケットカバーを取り外します。

4mm 六角レンチ



#### ポイント

ハンドルステムの固定がゆるすぎて安定しない場合は、ハンドルステムのボルトを少し締めてください (P.17-01)



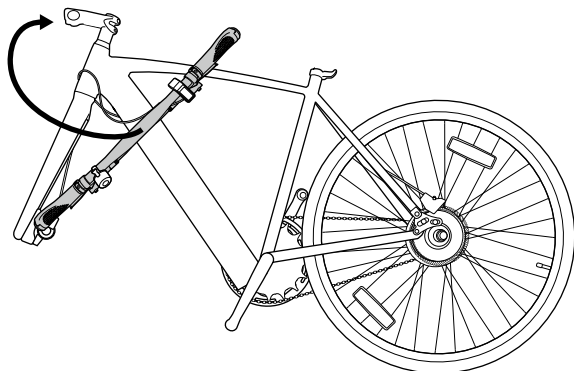
### 02

ブレーキレバーを握らないようにして本体からハンドルを外し、そのままハンドルステムのハンドル固定ブラケットにあわせます。ハンドルの左右中央部をハンドル固定ブラケットに合わせるようにしてください。



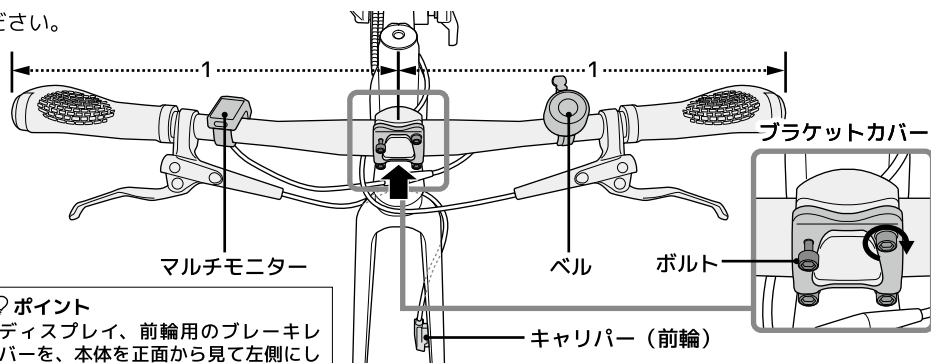
**注意**

ハンドルを回転させないでください。ブレーキホース、ディスプレイケーブルをねじらないよう、また絡まないように注意してください。



### 03

ハンドルを中心にセットしたら、ブラケットカバーを取り付けてボルト（4カ所）を軽く固定します。ここでは、4本のボルトを均等に締め付け、手でハンドルが動かせる程度の強さで固定しておいてください。



#### ポイント

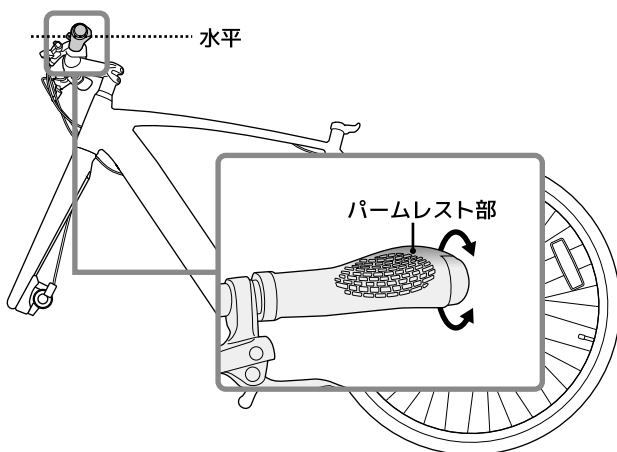
ディスプレイ、前輪用のブレーキレバーを、本体を正面から見て左側にします。

### 04

ハンドルを軽く回して調節し、ハンドルグリップのパームレスト部が、地面に対しておおよそ水平になるようにします。

#### ポイント

パームレストがおおよそ水平になる程度が基本的な角度ですが、ハンドル、ブレーキが操作しやすいように調節してください。

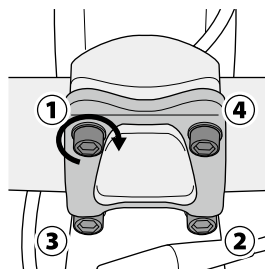


### 05

ハンドルが左右均等になっていることを今一度確認した上で、六角レンチ（4mm）でブラケットカバーのボルト（4カ所）をきつく締め付けてください。右図のように、①②③④①②・・・と対角線上のボルトを徐々に均等に締めていきます。

#### ポイント

4カ所のボルトを均等に、徐々に締めるようにしてください。1カ所のみ先に強く締めると、ハンドルを正しく固定できないおそれがあります。



### 06

ハンドルの取り外しは逆の手順で行います。ハンドルの位置や角度を調節しなおす場合は、ブラケットカバーのボルトを少しゆるめてハンドルを調節して、ボルトをしっかりと締めなおしてください。

## 前輪の取り付け

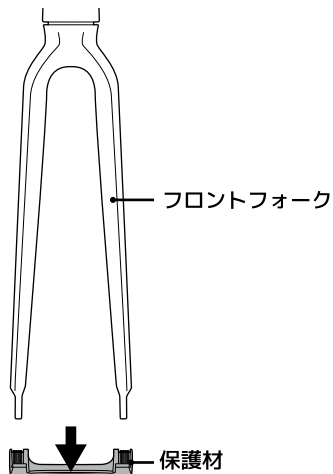
### 01

ご購入時には、フロントフォークの先端部に保護材が嵌め込まれています。あらかじめ、保護材を取り外しておいてください。



**注意**

保護材は、お子さまの手の届かない場所に保管しておくか、またはお子さまの手の届かない所に廃棄してください。



### 02

前輪には左右があります。あらかじめ前輪の左右を確認してください。本体を正面から見て右側にあるキャリパーに前輪のブレーキディスクを嵌めて使用しますので、ブレーキディスクのある側が前輪の右面になります（本体を正面から見た場合です）。

ご購入時、車軸部分の左右に保護キャップが取り付けられていますので、あらかじめ取り外してください。



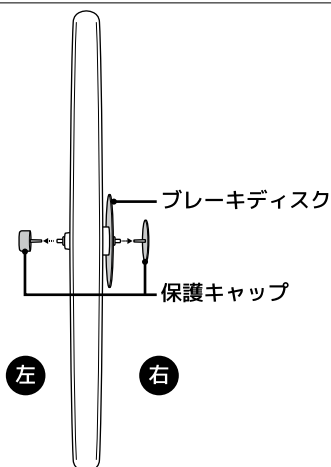
**注意**

保護キャップは、お子さまの手の届かない場所に保管しておくか、お子さまの手の届かない所に廃棄してください。

#### ポイント

取り付け、取り外しができなくなりますので、前輪の取り付け、取り外しの際に、前輪のブレーキレバー（本体を正面から見て左側）を握らないでください。

※ブレーキのキャリパーが閉じた状態では、前輪の着脱ができません。

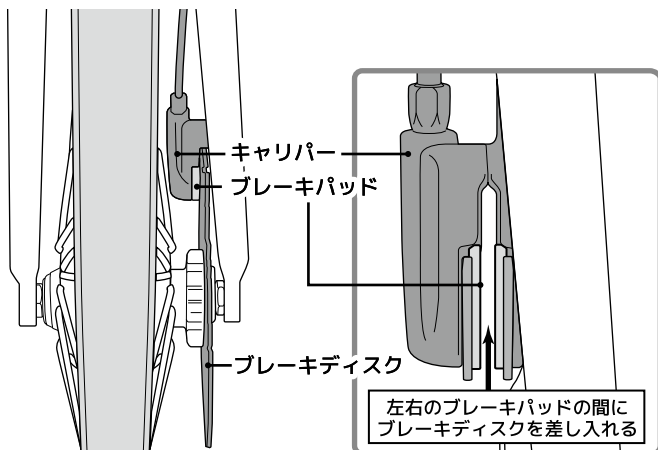
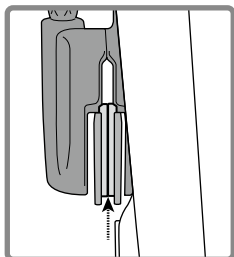


### 03

左右が確認できたら、前輪のブレーキディスクをキャリアのブレーキパッドで挟むようにして差し入れます。

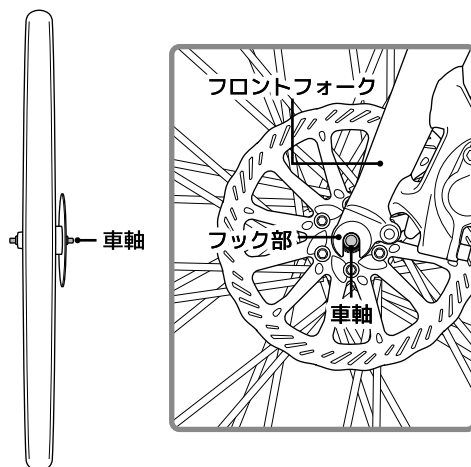
#### ポイント

左右のブレーキパッドが固着している場合は、薄いマイナスドライバーなどを固着部に差し込んで、ブレーキパッドを乖離してください。



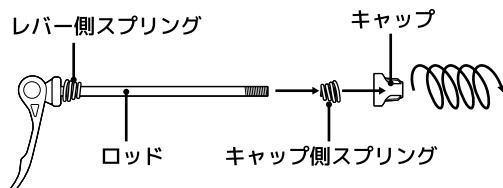
### 04

前輪の車軸を、フロントフォークのフック部（左右）に掛けておきます。



### 05

クリックリリースレバーのキャップを回して、キャップとキャップ側のスプリングを外します。レバー側のスプリングは外さないでください。



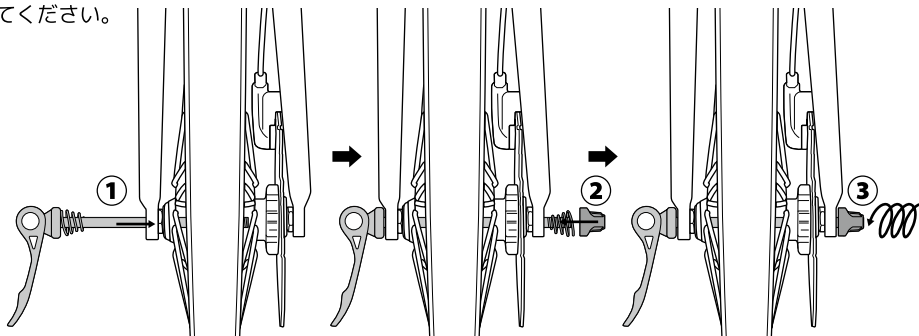
#### クイックリリースレバー

#### ポイント

小さなものですので、キャップ、スプリングを無くさないように注意してください。

## 06

①ロッドとレバー側スプリングを車軸に差し込み、②キャップ側スプリングとキャップを車軸に取り付けて、③キャップを軽く締めます。スプリングは、それぞれ径の太い側をレバー側とキャップ側にしてください。

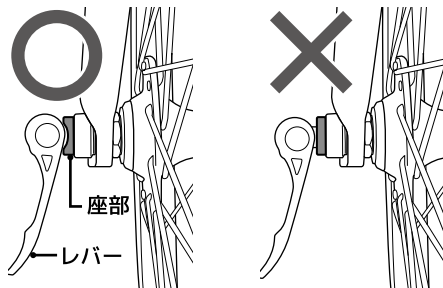


### ポイント

レバー側のスプリング、キャップ側のスプリングで前輪を挟むようにします。

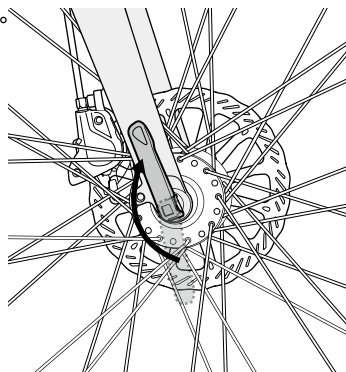
## 07

レバーの根元部を座部のU字状に沿うように調節してから、キャップを強く締め付けてください。



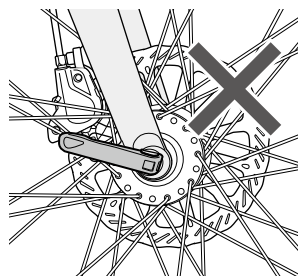
## 08

レバーをフロントフォークに沿う角度（フロントフォークと並行）に回転させて、レバーを倒してクイックリリースレバーを固定します。最後までしっかりとレバーを倒してください。



### ポイント

レバーに足が掛かるなどして開かないように、レバーをフロントフォークに沿わせるようにしてください。

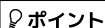




**注意**

レバーの操作はかためになります。レバーが軽く操作できる場合は、固定がゆるい状態ですので、レバーを解除してキャップを強く締めなおしてから、再度レバーを倒してクイックレバーを固定してください。

レバーは最後までしっかりと倒してください。



**ポイント**

レバーがかたすぎてしっかりと倒せない場合は、キャップを少しだけゆるめてレバーを操作してください。

## 09

前輪の取り外しは逆の手順で行います。

前輪を取り外した際には、クイックリリースレバーの座部、スプリング（2つ）、キャップを紛失しないように注意してください。



**ポイント**

部品を紛失しないように、クイックリリースレバーのロッドに、座部（および金属部）、スプリング（2つ）を通して、キャップを締めておいてください。

## ハンドルステムの確認と固定

ハンドルステムは、ハンドルを固定する重要な部品です。ハンドルステムがしっかりと固定されていないと、走行中に突然自転車が制御できなくなるおそれがあります。重大な事故の原因となりますので、ハンドルステムは確実に固定してください。

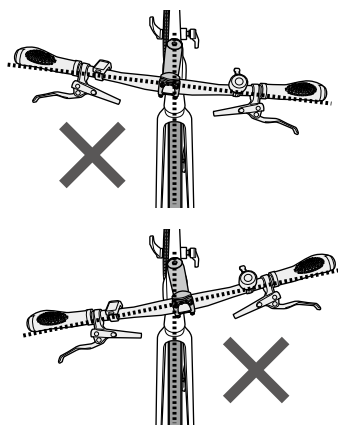
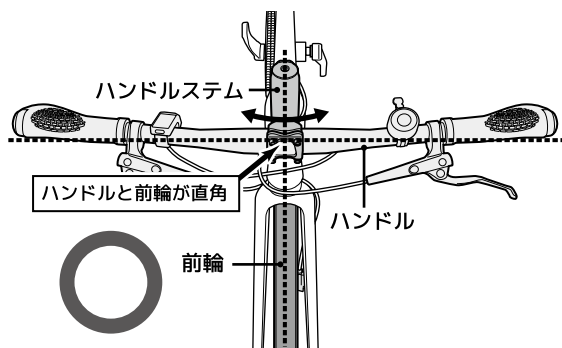


**警告**

ハンドルステムにより、前輪とハンドルの位置関係が決まります。このため、ハンドルステムが正しい向きに固定されていないと、ハンドルの向きと異なる方向に自転車が走行します。必ずハンドルステムの確認を行い、正しい向きで固定するようにしてください。

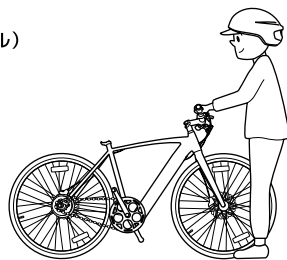
## 01

前輪とハンドルが垂直になるように、ハンドルステム（ハンドル）を調節します。



### 💡ポイント

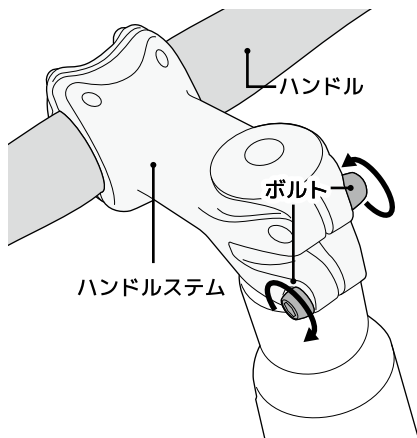
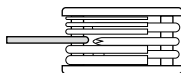
前輪を両足で挟むようにして、ハンドルを動かさずと、ハンドルステム（ハンドル）の調節がしやすくなります。



## 02

六角レンチ（4mm）を使用して、ハンドルステムを固定している2本のボルトをしっかりと締めます。前輪を固定した状態でハンドルを左右に動かしても、ハンドルステムが動かない事を確認してください。

4mm 六角レンチ



## ペダルの取り付け



**注意**

部品の仕様により、ペダルにⓁⓇのシールが貼られていない場合があります。

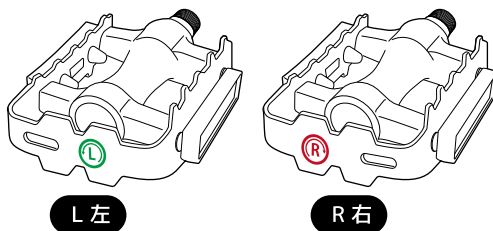
この場合、ペダルのネジ部分に「L」（左）、「R」（右）の刻印があります。シールの左右を刻印に置き換えてお読みください。

ペダルには左右があります。あらかじめ左右を確認しておきます。

自転車の進行方向に向かって（本体を後ろから見て）、左側にⓁのシールが貼られたペダルを、右側にⓇのシールが貼られたペダルを取り付けます。

### 💡ポイント

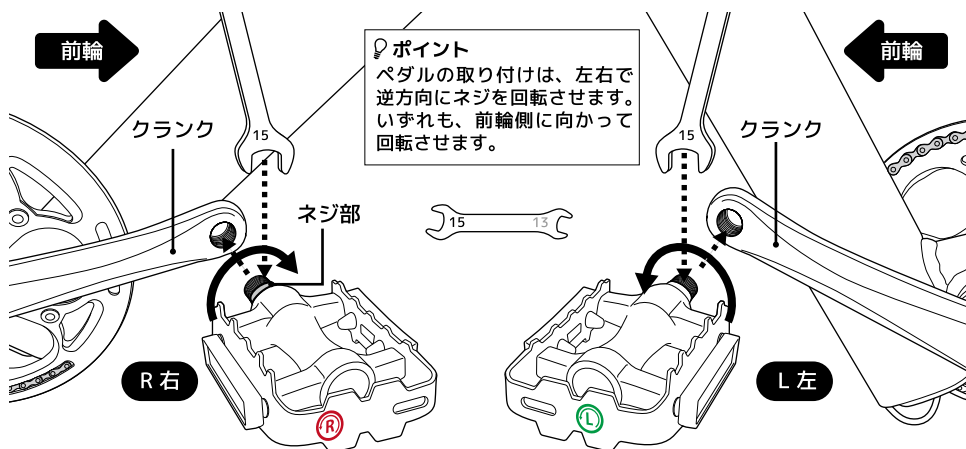
ここでは、ここまでの説明とは逆に本体を後ろから見ての左右で説明します。





## 01

ペダルのネジ部をクランクに差し入れて、R（右）は時計回り（前輪側に向かって回転）に、L（左）は反時計回り（前輪側に向かって回転）に回転させてペダルを取り付けます。スパナ（15mm）を使ってしっかりと締め付けてください。左右とも同じようにして取り付けます。取り外す場合は、逆の手順で行ってください。



### 警告

走行中にペダルが外れて思わぬ事故につながるおそれがありますので、ペダルは左右ともしっかりと固定してください。

## サドル・後方リフレクターの取り付け

ご購入時にはサドルは取り外されています。サドルに後方リフレクターを取り付けて、サドルを本体に取り付けます。

### [ 後方リフレクターの取り付け ]



### 警告

法律により、自転車後部にリフレクター（反射板）の自転車への装備が義務付けられています。本製品には、サドルの支柱部に通して装着する後方リフレクターが付属しています。サドルを取り付ける際に、同時に後方リフレクターを取り付けてください。

### ポイント

本製品には、法律で義務付けられている後方リフレクターと、付属サービス品の前方リフレクターが付属しています。前方リフレクターは任意で取り付けて使用します。前方リフレクターも、安全のため取り付けての使用をお勧めします。後方リフレクターには赤色の反射板、前方リフレクターには白色の反射板が取り付けられています。



### 後方リフレクター

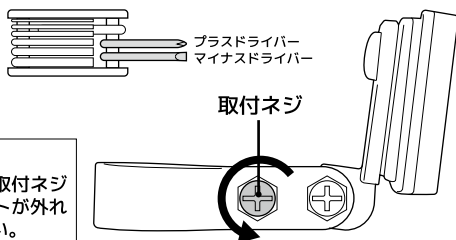
必ず取り付けてください



### 前方リフレクター

## 01

あらかじめ、ドライバー（マイナスまたはプラス）で、後方リフレクター側面の取付ネジをゆるめておきます。

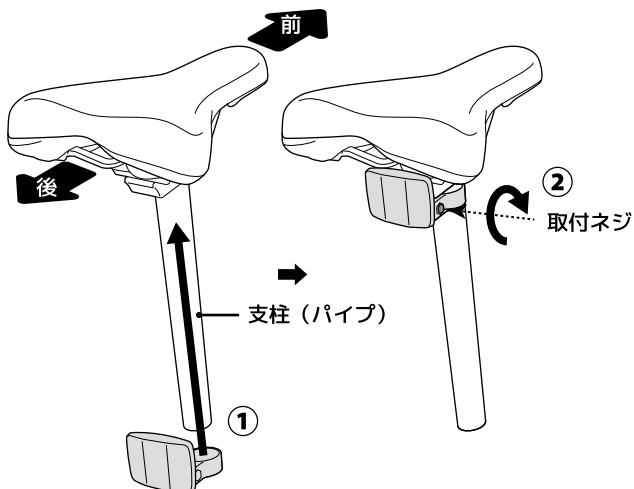


### ポイント

取付ネジの反対側にはナットが取り付けられています。取付ネジを完全に取り外すと、ナットが外れて落下します。ナットが外れた場合は、ナットを元に戻して取付ネジを締めてください。

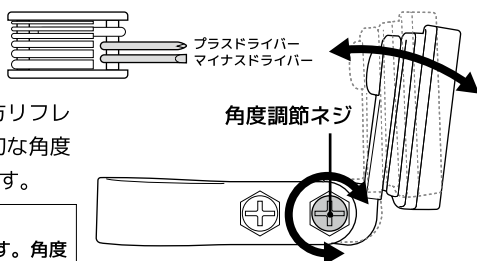
## 02

サドルの前後を確認して、サドルの後方にリフレクターが向くようにして、①支柱（パイプ）に、後方リフレクターを差し込み、②取付ネジを締めて、取り付けます。後方リフレクターを動かしてみて、支柱からずり落ちない事を確認してください。



## 03

角度調節ネジをゆるめると、後方リフレクターの反射板の角度を変えることができます。サドルを自転車に取り付けてみて、後方からしっかりと後方リフレクターが視認できることを確認してください。適切な角度になったら、角度調節ネジを締めて角度を固定します。

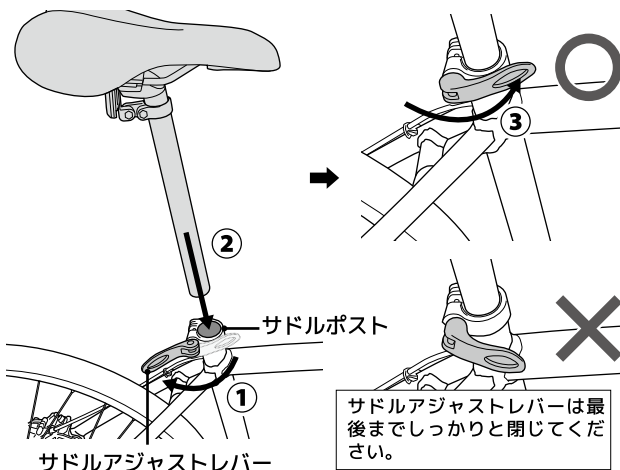


### ポイント

角度調節ネジの反対側にはナットが取り付けられています。角度調節ネジを完全に取り外すと、ナットが外れて落下します。ナットが外れた場合は、ナットを元に戻して角度調節ネジを締めてください。

## 04

①サドルアジャストレバーを開いて、②サドルの支柱をサドルポストの差込口に差し込みます。サドルを任意の高さにして③サドルアジャストレバーを閉じると、サドルが固定されます。サドルアジャストレバーは最後までしっかりと閉じてください。



### ⚠注意

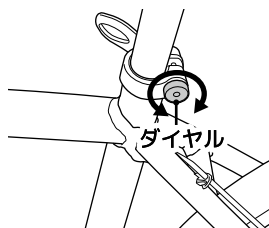
サドルアジャストレバーがしっかりと閉じられていないと、走行中に突然サドルが下がるおそれがあります。

### 💡ポイント

サドルアジャストレバーの操作はかためです。サドルの高さを調節した後はしっかりとレバーを閉じてください。

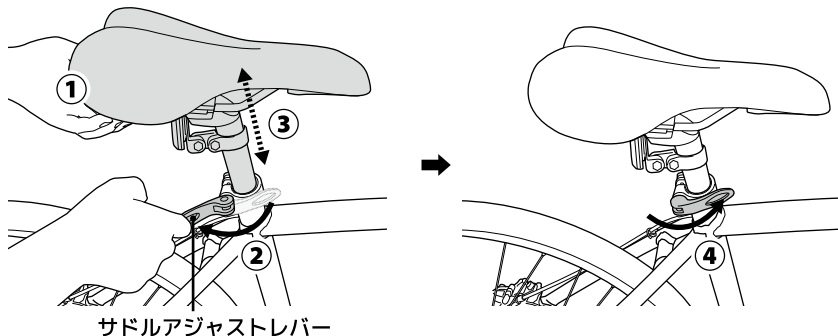
サドルアジャストレバーの操作が固すぎて、レバーが最後まで閉じない場合は、レバーを開いた状態でレバーの反対側にあるダイヤルを少しゆるめるとの操作しやすくなります。

ただし、レバーを完全に閉じた際に、操作が軽すぎたり閉じてもレバーがカタカタ動く状態になってしまった場合は、サドルが正しく固定されませんので、同様の手順でダイヤルを締めて、サドルアジャストレバーの操作が固めになるように調節してください。



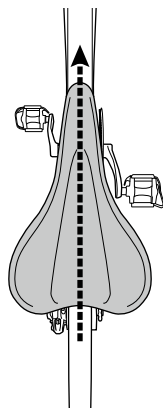
## 05

サドルの高さを調節するには、①片手でサドルを支えて、②サドルアジャストレバーを開きます。③お好みの高さに調節して、④サドルアジャストレバーを最後までしっかりと閉じてサドルを固定します。サドルを上下に動かしてみて、しっかりと固定されていることを確認してください。



### ⚠注意

必ず片手でサドルを支えて、サドルアジャストレバーを開いてください。支えずにサドルアジャストレバーを開くと、サドルが急に下に動いてケガをするおそれがあります。



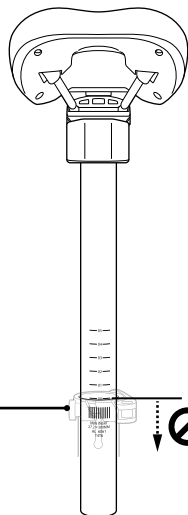
サドルは自転車の進行方向に対して真っすぐになるように調節してください。後輪、フレームと並行になるようにします。

**警告**

サドルのパイプの後ろ側には、調節の目安となるメモリが印字されています。サドルの高さを－00－よりも上に調節すると、使用中にサドルが外れるおそれがあります。

－00－のメモリが外側から見えたらそれ以上サドルを上げないでください。

サドルが抜け落ちて本体が落下するおそれがありますので、自転車を持ち上げる際にサドルを持たないでください。



**06**

サドルの高さは、お好みに合わせて調節してください。一般的には、サドルにまたがった際に、両足のつま先が地面に付く程度が適切とされています。本製品のようなスポーツタイプの自転車の場合、一般的な高さよりも、少しサドルを高めに使用されています。

停止時、発信が安全にできること、また特にハンドル、ブレーキの操作がスムーズに行える高さで調節するようにしてください。

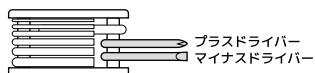


**警告** 実際に乗る前に、「充電」、「走行前の点検確認」を必ず行ってください。

## 前方リフレクター（付属サービス品）の取り付け

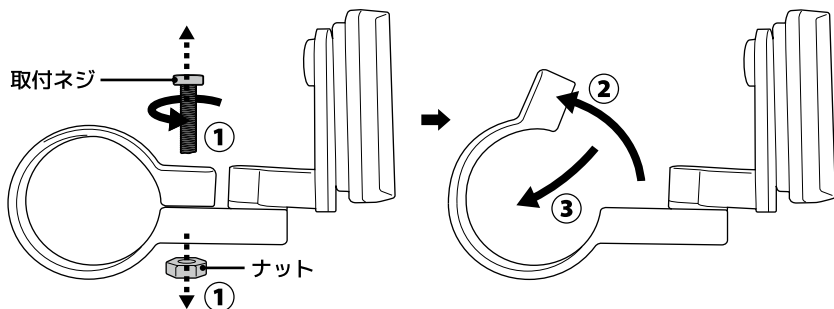
本製品には、付属サービス品として前方リフレクターが同梱されています。

前方リフレクターは、ハンドル部に取り付けます。



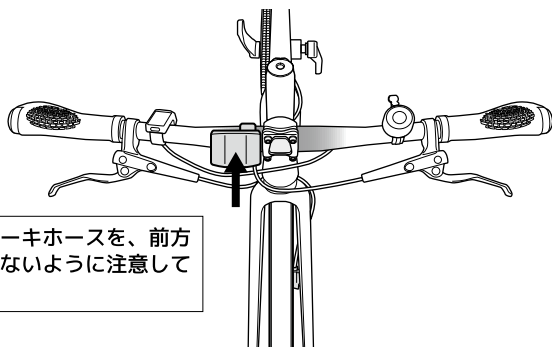
### 01

①ドライバー（マイナスまたはプラス）で、前方リフレクターの取付ネジとナットを外します。取付ネジ、ナットをなくさないように注意してください。取付ネジとナットが外れたら、②取り付け部を開いて開口部をつくり、③ハンドルのパイプに嵌めるようにして取り付けます。



### 02

ハンドルパイプの太い部分（ハンドルステム左右の中心部あたり）に、前方リフレクターの開口部を嵌め込んで取り付けます。

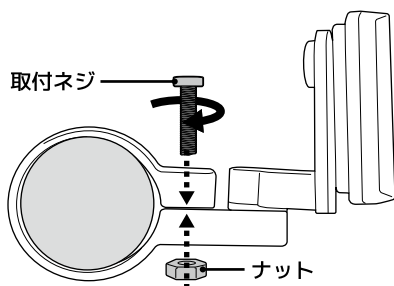


**注意** ディスプレイケーブルやブレーキホースを、前方リフレクターの開口部で挟まないように注意して取り付けてください。

### 03

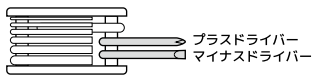
ナットを嵌めて、取付ネジを締めて前方リフレクターを固定します。

前方リフレクターが動かないことを確認してください。



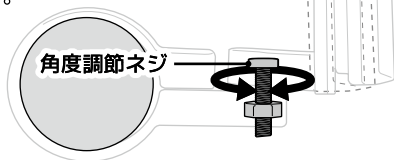
## 04

角度調節ネジをゆるめると、前方リフレクターの反射板の向きを変えることができます。適切な向きになったら、角度調節ネジを締めて固定します。



### ⚡ポイント

角度調節ネジの反対側にはナットが取り付けられています。角度調節ネジを完全に取り外すと、ナットが外れて落下します。ナットが外れた場合は、ナットを元に戻して角度調節ネジを締めてください。



## 5. 本製品を使用する

### 充電する

本製品の電動アシストシステムおよびディスプレイはバッテリーで作動します。バッテリーは本体のフレーム内に内蔵されています。ご使用前にバッテリーを充電してください。

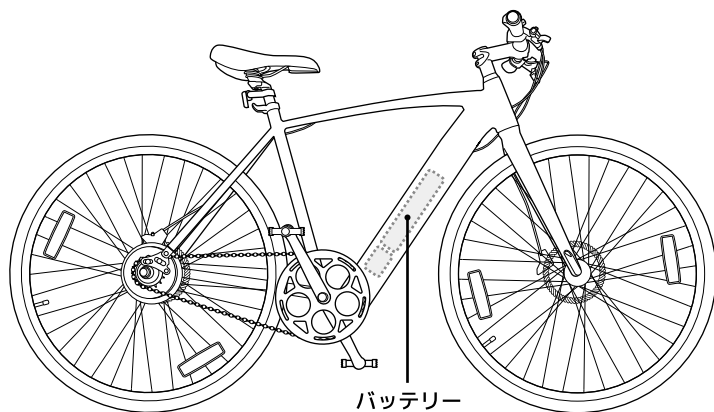
#### 📍ポイント

ご購入時は、満充電されていません。実際にお乗りいただく前に充電してください。

#### ⚠️警告

バッテリーは取扱方法を誤ると大変危険です。

P.14 ▶使用上の注意▶（充電・バッテリーの取り扱いにあたって）を必ず確認してください。



#### 📍ポイント

本体のフレーム内には、バッテリーおよび電動アシストシステムのコントローラーが内蔵されています。

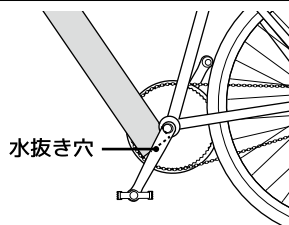
### 01

ご購入時、本製品には自転車を自立させるスタンドが付属していません。スタンドを取り付けていない場合は、自転車が転倒したり動いたりしないよう注意してください。

充電端子は、自転車を正面から見て右側にあります。

#### ⚠️警告

バッテリー、コントローラーに浸水しないように、フレームの底部には水抜き穴が設けられています。水抜き穴を塞がないでください。

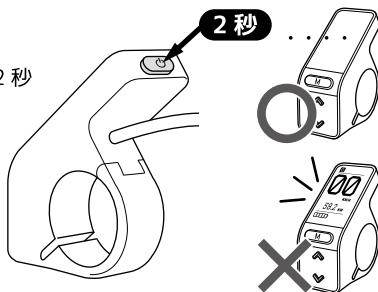


## 02

ディスプレイの電源が入っていないことを確認してください。  
電源が入っている場合は、ディスプレイの電源スイッチを2秒以上押し続けて電源を切ってください。

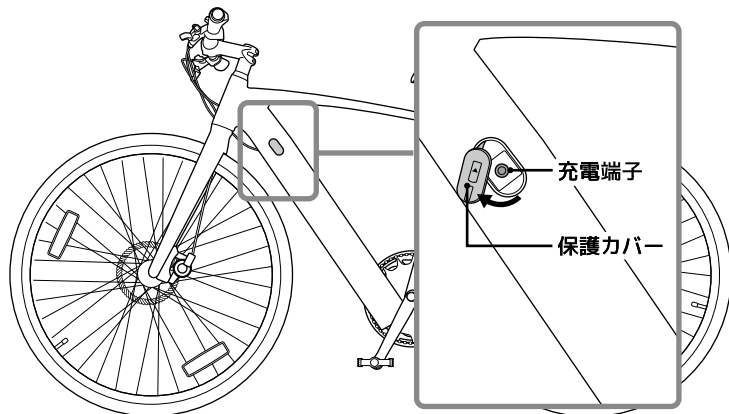
### ポイント

ディスプレイの電源を入れた状態で充電しないでください。



## 03

保護カバー（ゴムカバー）を外して、充電端子を出します。

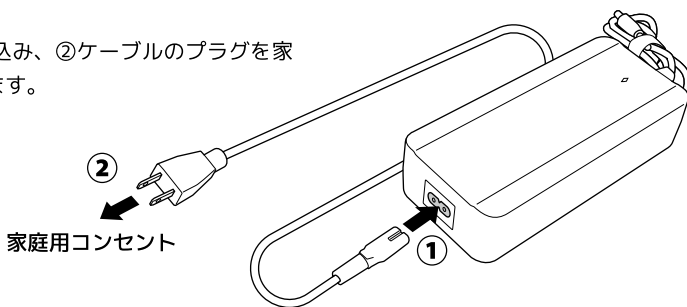


### 注意

保護カバーはフレームとつながっています。保護カバーをフレームから外さないでください。

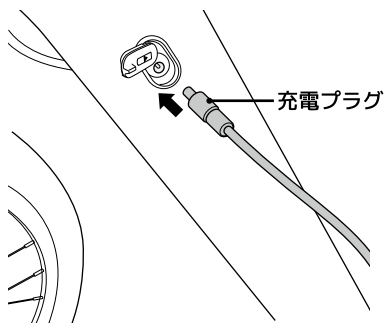
## 04

①ケーブルを充電器に差し込み、②ケーブルのプラグを家庭用コンセントに差し込みます。



## 05

充電プラグを充電端子に差し込みます。





## 05

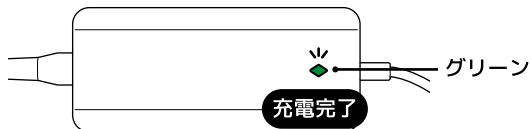
充電プラグを充電端子に差し込むと充電器のオレンジ色のランプが点灯して充電が開始されます。



## 06

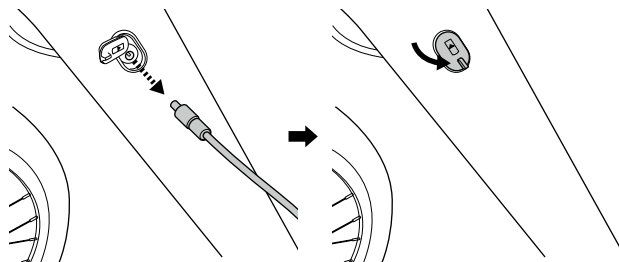
緑色のランプが点灯すると充電完了です。

**ポイント**  
バッテリーの残量により、充電に必要な時間は異なります。



## 07

充電完了後は、充電端子から充電プラグを抜いて、保護カバーを被せます。



**警告**

充電中以外は、充電端子部の保護カバー（ゴム）は必ず被せておいてください。雨などの水分が充電端子部にかかると、ショート、発火、火災、感電のおそれがあります。

## 08

コンセントからプラグを抜いて、充電器を取り外してください。



**警告**

充電したまま放置しないでください。

充電完了後は、すみやかに充電端子から充電プラグを抜いてください。

充電完了後は、忘れずに充電器をコンセントから抜いてください。

充電中は、フレームのバッテリー部、充電器が高温になりますのでご注意ください。

## ディスプレイの基本的な使用方法

ディスプレイには、バッテリーの残量や走行距離、速度などの本製品の情報が表示されます。また、アシストモードの切り替えなど、電動アシストシステムの制御はディスプレイで行います。



ディスプレイの操作は、自転車を停止させて周囲の安全を確認して行ってください。

ディスプレイに異常がある場合はそのままにせず、自転車の使用を中止して本書末尾に記載の弊社「カスタマー サービス部」までお問合せください。



表示の異常、故障、誤作動の原因となりますので、ディスプレイの電源を入れた状態で、自転車との接続部の抜き差しをしないでください。

大雨、大雪、強い日光などの過酷な環境ではディスプレイの使用を避けてください。



ディスプレイは、自転車本体のバッテリーを使用します。このため、自転車のバッテリー残量がない場合には起動しません。

あらかじめ、自転車のバッテリーを充電しておいてください。

### [ 電源 ]

ディスプレイ後部の電源スイッチを 2 秒間押しと電源が入ります。

電源を切る場合も同様に電源スイッチを 2 秒間押ししてください。

また、自転車が走行していない状態が継続して 5 分間続くと、自動的に電源が切れますので、再度電源を入れたい場合は、もう一度 2 秒間電源ボタンを押してください。

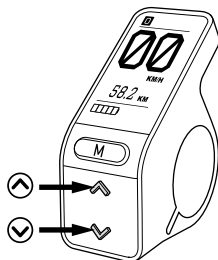
電源を入れた時点、ディスプレイは初期画面になっています。自転車の速度、走行距離、バッテリー残量、アシストモードレベル、が表示されます。



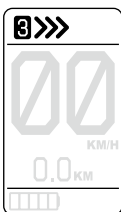
### [ アシストモードの切り替え ]

初期画面において、切替ボタン(上向き矢印)(下向き矢印)を操作(長押しはしないでください)するとアシストモードの切り替えが行えます。アシストには 0~5 の段階があり、0 はアシストなしの状態になります。数字が大きいほど、より強くアシストを行います。

(上向き矢印)を押すと上がり、(下向き矢印)を押すと下がります(最後まで(下向き矢印)を押すとアシストが OFF になります)。



強い (上向き矢印)



(下向き矢印) 弱い



(下向き矢印) 切

## ポイント

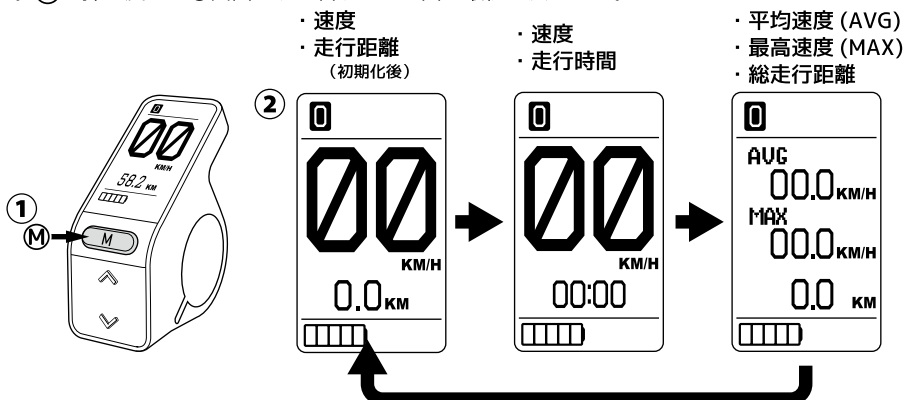
切替ボタン(Ⓜ)を押してお好みのアシストレベルに調節してください。

本製品の使い始めは、アシストレベル1で走行してみてください。レベル1に慣れてから、2以上に切り替えて使用します。

なお、アシストレベルを上げてても自転車の速度が速くなるものではありません。

## [ 表示情報の切り替え ]

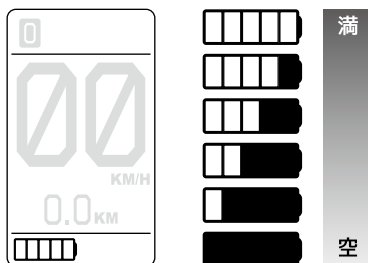
①ファンクションボタン(Ⓜ)を押すと(長押ししないでください)②表示情報を切り替えることができます。(Ⓜ)を押す度に、②画面が切り替わり、3回で最初にに戻ります。



## [ バッテリーインジケーター ]

ディスプレイの画面下部の電池型のアイコンはバッテリーの残量を表示しています。バッテリー残量は5段階で表示され5つとも表示されている状態が満充電の状態です。

表示がなくなる(バッテリーが空になる)と、アシストが停止してディスプレイも表示できなくなりますので、表示が少なくなる前に充電するようにしてください。



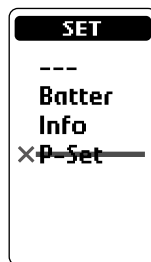
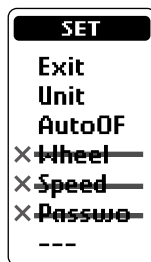
## ディスプレイの各種設定画面

ディスプレイでは以下の項目の設定および情報の確認が可能です。

- ユニット : 表示単位の設定 (km または Mile)
- オートオフ : 電源オートオフの時間を設定できます
- ホイール : タイヤ径を設定します (本製品は 700C です / 設定不要です)
- スピード : 操作しないでください (速度設定)
- パスワード : 操作しないでください (ディスプレイのパスワード設定)
- バッテリー : バッテリー状態の表示
- インフォメーション : ディスプレイのバージョン情報が表示されます
- P - セット : 操作しないでください

設定画面の内、右図で X と指示してある項目は、設定不可または設定禁止の項目です。

これらの項目は設定することができません。

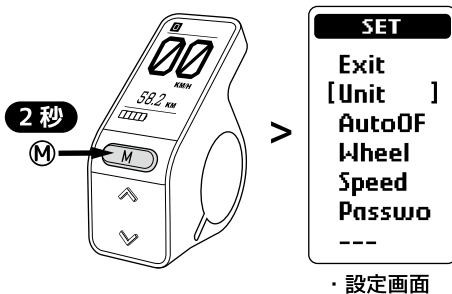


### 01

自転車を停止させた状態で、ディスプレイの電源を入れて 10 秒以内にファンクションボタン(M)を 2 秒以上押し、設定画面が表示されます。

設定画面および設定項目の画面が表示された状態で 10 秒間操作をしないと、初期画面に戻ります。もう一度設定画面を表示するには、電源を入れなおして操作してください。

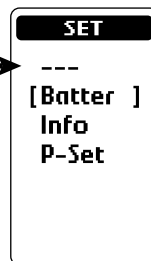
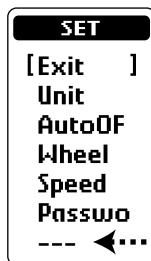
#### ポイント



### 02

設定する項目は、切替ボタン(⏪/⏩)を操作して選択します。[ ] で囲われた項目が選択されています。目的の項目に [ ] を合わせてファンクションボタン(M)を押すと、その項目の設定、確認ができます。

設定画面は 2 ページあります。項目の --- に [ ] をあわせると、自動的に次の画面 (または前の画面) に切り替わります。



・項目画面 1

・項目画面 2

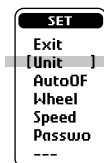
### 03

設定内容を保存、終了するには、各項目の設定、確認を行った後に設定画面まで戻り、[Exit] を選択して、ファンクションボタン(M)を押します。

または、項目の設定を行った後、設定画面まで戻らずに、そのまま(M)を 2 秒以上長押ししても、設定内容の保存、終了ができます。

設定画面が終了すると、初期画面に戻ります。

## [ 各項目の設定と確認 ]



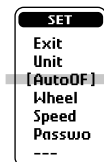
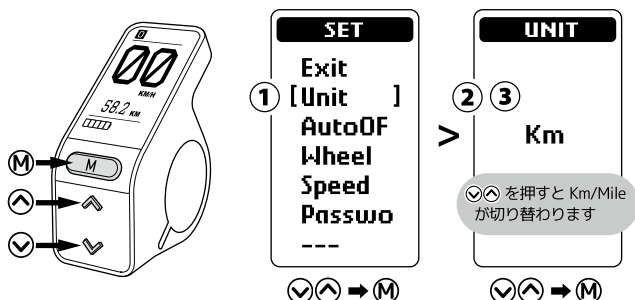
### [Unit ユニットの設定]

ディスプレイの表示単位を確認できます。本製品は km (キロメートル) または Mile (マイル) の表示単位を選択することができます。

#### 01

設定画面で [Unit] を選択して、①ファンクションボタン(M)を押します。

画面が UNIT に切り替わったら、②選択ボタン(▽/△)を押すと [km] / [Mile] が切り替わります。設定したい単位を表示させて、③(M)を押すと表示単位が切り替わった状態で設定画面に戻ります。



### [AutoOF 電源オートオフの時間設定]

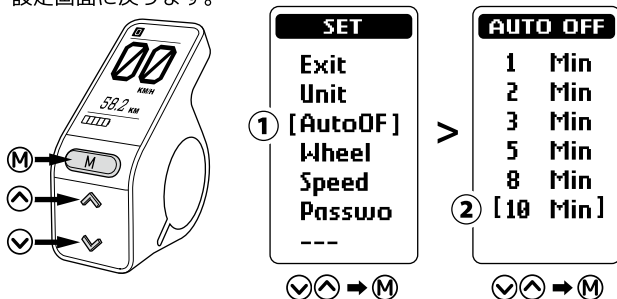
出荷時、本製品は自転車が行っていない状態が継続して 5 分間続くと自動的に電源が切れるように設定されています。

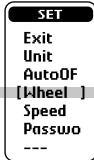
この画面では、自動的に電源が切れるまでの時間を調節することができます。

#### 01

設定画面で [AutoOF] を選択して、①ファンクションボタン(M)を押します。

画面が AUTO OFF に切り替わったら、②(△/▽)を操作して設定したい時間 [ 〇〇 Min ] を選び、(M)を押して確定して、設定画面に戻ります。





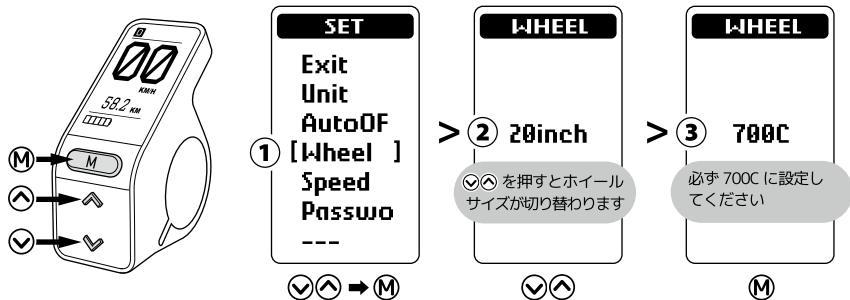
## 【Wheel ホイールの設定】 ㊟ 禁止 設定を変更しないでください

本製品は 700C のホイールが装備されています。出荷時には正しい設定になっていますので、設定、調節する必要はありません。誤って設定を変更してしまった場合は以下の操作を確認して 700C の設定に戻してください。

### 01

ホイールの設定画面は、設定画面で [Wheel] を選択して①ファンクションボタン(M)を押すと表示されます。画面が WHEEL に切り替わったら、表示されているホイールのサイズを確認します。700C と表示されていれば、そのまま(M)を押します。

他の表記になっていた場合、②選択ボタン(✓)⇧(▲)を押すとホイールのサイズが切り替わります。(✓)⇧(▲)を押して、700C を表示させて(M)を押します。これでホイールが正しく設定されて設定画面に戻ります。

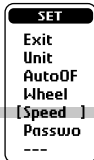


#### 💡ポイント

20inch ▶ 26inch ▶ 700C で切り替わり、最初に戻ります。  
700C が表示されたら、(M)を押してください。

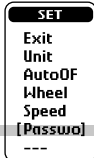
#### ⚠️注意

ディスプレイの表示内容に影響を与えますので、必ず 700C に設定してください。



## 【Speed スピードの設定】 ㊟ 禁止 設定を変更しないでください

設定することはできませんので操作しないでください。  
誤って画面を開いてしまった場合は、そのまま(M)を押してください。設定画面に戻ります。

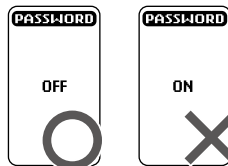


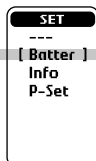
## 【Passwo パスワードの設定】 ㊟ 禁止 設定を変更しないでください

設定することはできませんので操作しないでください。  
誤って画面を開いてしまった場合は、そのまま(M)を押してください。設定画面に戻ります。

#### 💡ポイント

誤ってパスワードの画面を開いた場合は、OFF と表示されている事を確認してそのまま、(M)を押してください。誤って操作して画面に ON と表示させてしまった場合は、(✓)⇧(▲)を押して、画面に OFF を表示させてから、(M)を押してください。





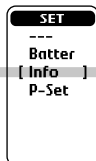
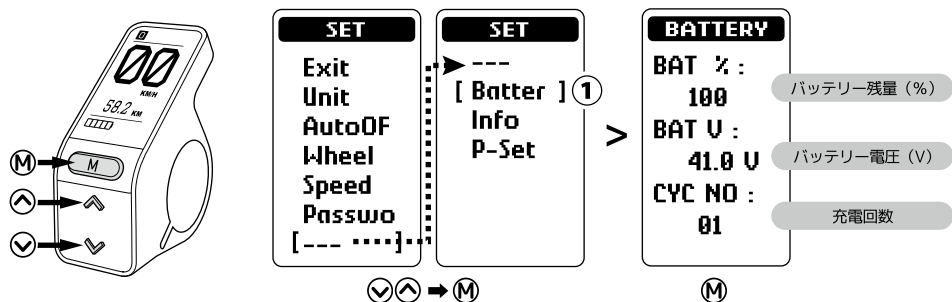
## |Batter バッテリーインフォメーションの表示 |

バッテリーの情報を確認したい場合に表示させます。情報の確認のみ行います。設定する部分ははありません。

### 01

設定画面で $\checkmark$ を操作して、項目画面 2 の① [Batter] を選択して $\textcircled{M}$ を押し、BATTERY 画面を表示します。内容をご確認ください。設定画面（項目画面 2）に戻るにはもう一度 $\textcircled{M}$ を押します。

設定画面（項目画面 1）に戻るには、設定画面で $\triangle$ を押します。



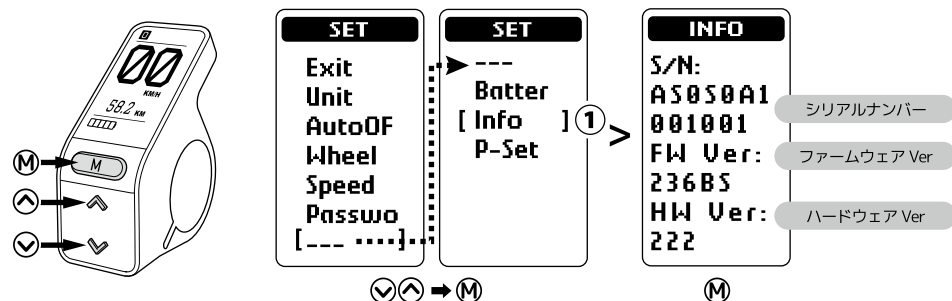
## |Info 製品情報の表示 |

ディスプレイの製品情報を表示させます。設定する部分ははありません。

### 01

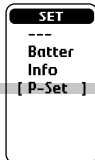
設定画面で $\checkmark$ を操作して、項目画面 2 の、① [Info] を選択して $\textcircled{M}$ を押し、INFO 画面を表示します。内容をご確認ください。設定画面（項目画面 2）に戻るにはもう一度 $\textcircled{M}$ を押します。

設定画面（項目画面 1）に戻るには、設定画面で $\triangle$ を押します。



### 注意

ここで表示される番号と記号は、ディスプレイ、電動アシストシステムの個体情報となります。防犯登録に必要な車体ナンバーとは異なりますのでご注意ください。車体ナンバーは、本体のフレーム（フロントフォーク）に刻印されています。



## [P-Set] 禁止 設定を変更しないでください

設定することはできませんので操作しないでください。

誤って画面を開いてしまった場合は、パスワード入力画面が開きますので、そのまま **M** を 4 回押してください。設定画面に戻ります。

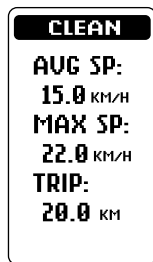
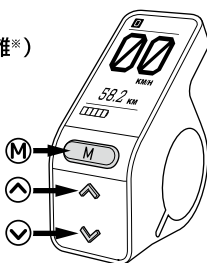
## [データの初期化]

ディスプレイに記録されたデータを初期化します。

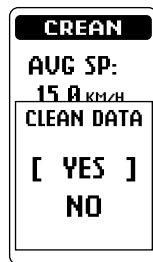
### 01

自転車を停止させた状態で、ディスプレイの電源を入れてから 10 秒以上経過した後に **M** を 2 秒以上押すと、①初期化されるデータの画面が表示されます。その状態でもう一度 **M** を押すと、②初期化の確認画面が表示されます。 **▽** **△** で [YES][NO] を切り替えて、 **M** を押します。 [YES] を選択して **M** を押すと、データが消去されて初期化されます。 [NO] を選択して **M** を押すと、データの初期化がキャンセルされます。いずれの場合も **M** を押して決定すると、ディスプレイの初期画面に戻ります。

- 平均速度
- 走行距離 (初期化後の走行距離\*)
- 走行時間
- 最高速度



**M**

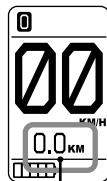


**▽** **△** **→** **M**

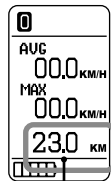
初期化画面のまま何もせずに 5 秒が経過すると、最初の画面に自動的に戻ります。

### ポイント

初期化後の走行距離がデータの初期化によって消去されます。走行前に初期化しておけば、その日や、その行程で走行した距離を確認することができます。これに対して総走行距離は、自転車のこれまでの走行距離を表示します。総走行距離のデータは、データの初期化を行っても消去されず、走行毎に加算されていきます。



初期化後の走行距離



総走行距離



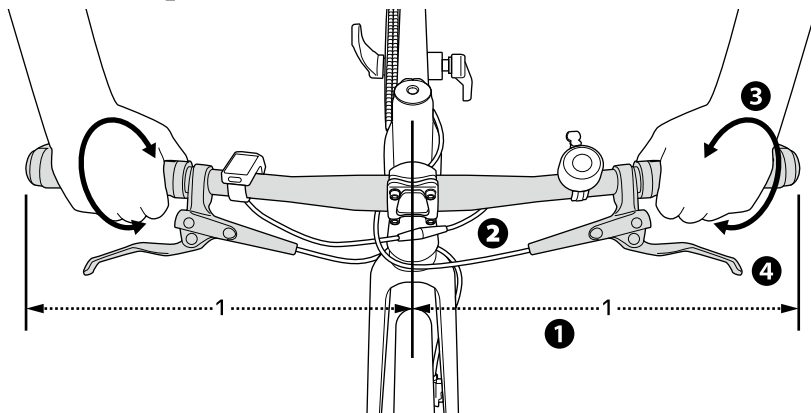
## 乗車前点検

組み立て、充電が完了したら、乗車前点検を実施します。正しくない状態の部位がある場合は、必ず正しい状態に調節、修正してから乗車してください。

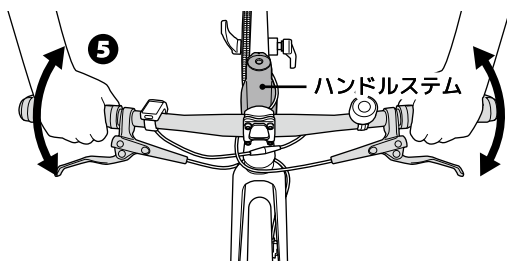
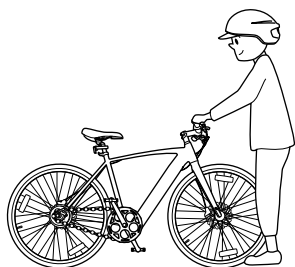


**警告** 乗車前点検は、乗車する前に毎回必ず行ってください。自転車の使用により、各部にゆるみや状態の変化が発生していないか確認してください。

### [ ハンドルの確認 ]

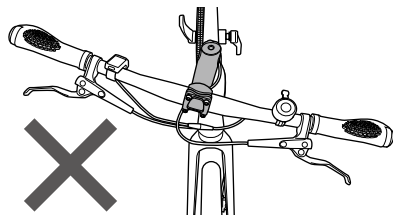


- ① ハンドルが左右均等の長さで固定されていること。
- ② ブレーキホース、ディスプレイケーブルにねじれや、異常がないこと（ハンドルを左右に切ってもホース、ケーブルが強く引っ張られた状態になったりしないこと）。
- ③ 両手で強い力でハンドルを上下に回転させようとしても、ハンドルが動かないこと。
- ④ 左右のブレーキレバーの操作に支障がないこと。
- ⑤ ハンドルが直進方向で固定されていて、前輪を両足で挟んだ状態でハンドルを左右に強く動かしても、ハンドル（ハンドルステム）が左右にずれないこと。





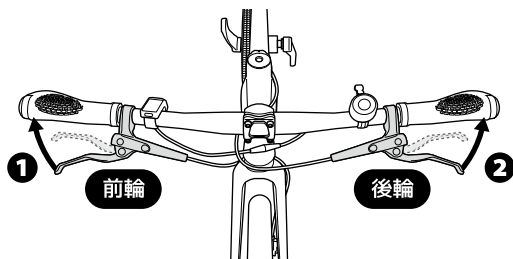
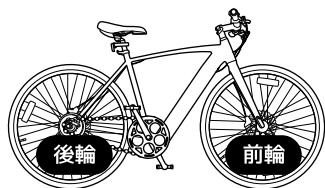
ハンドルステムの固定にゆるみがあると、前輪が制御できず大変に危険です。ハンドルステムにゆるみがある場合は、ハンドルステムを正しい向きに調節して、ハンドルステムを固定しているボルト（2本）をしっかり締めてください。



## [ ブレーキの確認 ]

前後のブレーキが正常に機能していることを確認します。

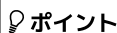
ブレーキレバーを握って、前輪、後輪それぞれ確実にブレーキが掛かることを確認してください。



- ① 前輪のブレーキは乗車した状態で右手で操作します（自転車を正面から見て左側）。
- ② 後輪のブレーキは乗車した状態で左手で操作します（自転車を正面から見て右側）。



**警告** ブレーキが正常に機能していない状態では絶対に使用しないでください。

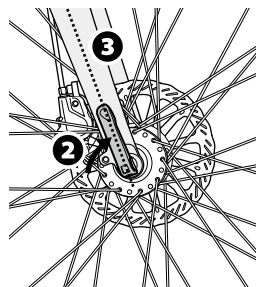
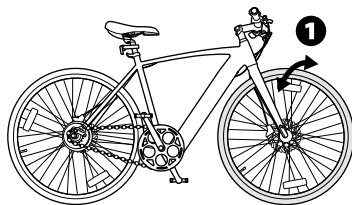


**ポイント** ブレーキは、ブレーキが掛かるまでブレーキレバーの稼働幅の1/2～1/3程度のおそびがある状態が正常に機能している状態です。おそびが多すぎる場合はブレーキの掛かりが弱く、おそびが少なすぎると急停止して危険です。ブレーキの調節は、お近くの自転車販売店にご依頼ください。

## [ 前輪の確認 ]

前輪が正しく固定されていることを確認します。

- ① 前輪を左右に動かしてもガタつきがないこと。
- ② クイックリリースレバーがしっかりと倒れていて、簡単にレバーが動かない程度に固定されていること。
- ③ クイックリリースレバーがフロントフォークに沿って（並行に）倒れていること。



**警告** 本製品の前輪はクイックリリースレバーで簡単に着脱できますが、クイックリリースレバーの状態が適切でないと、走行中に前輪がガタついたり、外れるなどして大変に危険です。前輪は、正しくしっかりと固定してください。

## [ ペダル・サドルの確認 ]

それぞれ、ゆるみなくしっかりと固定されていることを確認してください。

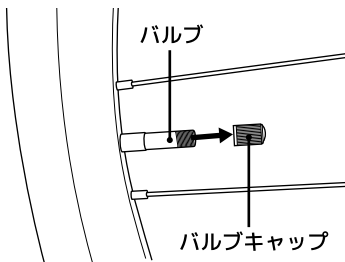
## [ タイヤの空気圧 ]

タイヤの空気圧が少ない場合、設置面積が広がるため自転車の操作が重くなり、本製品のような電動アシスト付き自転車の場合は、バッテリーの消耗が早くなります。また、パンクしたりリムの損傷につながりますので、適切な空気圧に調節してください。

本製品に使用されているタイヤの適切な空気圧は、タイヤの側面に表記されています。

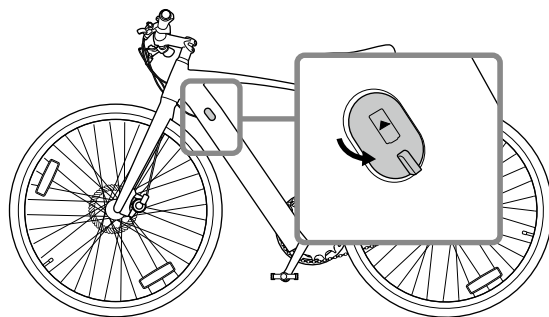
### ● 米式バルブ

本製品のタイヤは、米式バルブを採用しています。タイヤのバルブキャップを外して、米式のポンプ口金をはめて空気を入れます。空気圧を調節したら、口金を外してバルブキャップをしっかりと締めてください。



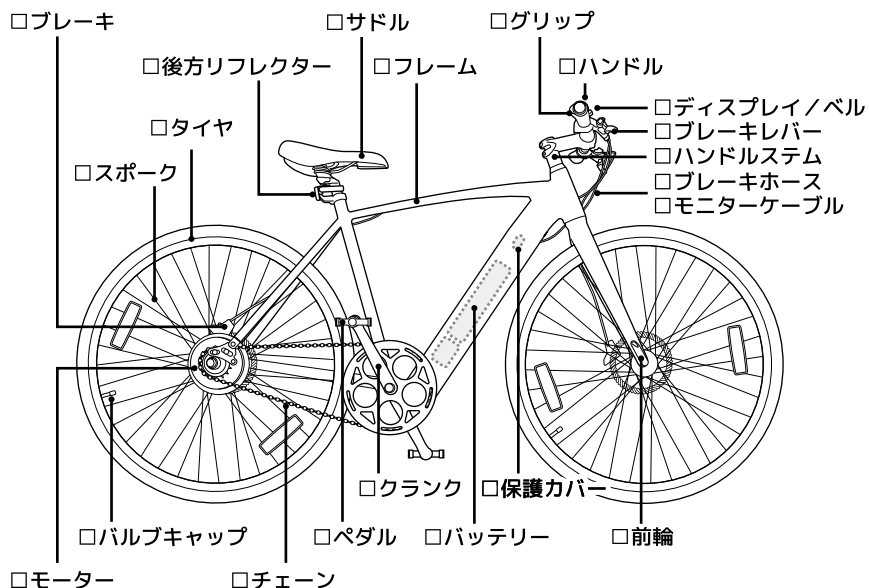
## [ 保護カバーの確認 ]

充電端子部の保護カバーが正しく被さっていることを確認してください。



# チェックリスト

乗車前に以下のチェックリストを確認します。



次ページの「Musashi Velo CS 01 走行前チェック」シートには走行前点検の項目が  
💡 **ポイント** 一覧で表記されています。「Musashi Velo CS 01 走行前チェック」を印刷して、走行前にチェックするようにしましょう。

Musashi Velo CS 01 走行前チェック

memo

check	部位	点検の内容
	ハンドル	しっかりと固定されていること / 歪み・曲がりがないこと
	ハンドルステム	向きが正しいこと / しっかりとハンドル、フロントフォークに固定されていること
	グリップ	ゆるみがないこと (ハンドルにしっかりと固定され、回ったりしないこと)
	ディスプレイ/ベル	正常に機能していること / ベルが鳴ること
	ブレーキレバー	前輪後輪ともブレーキレバーの操作で確実にブレーキが掛かること
	ブレーキホース	ねじれ・引っ張りがないこと
	ディスプレイケーブル	ねじれ・引っ張りがないこと
	前輪	ガタつきがないこと / クイックリリースレバーが正しく固定されていること
	フレーム	歪み・曲がり・ひび割れがないこと
	バッテリー	充電されていること / 正常に機能していること (走行時に) 異常加熱・発煙していないこと
	サドル	適切な高さで調節されていること / 正しい向きになっていること / -00- より低く調節されていること / サドルアジャストレバーが確実に倒されていること
	後方リフレクター	後方リフレクターが正しく取り付けられ、反射板が適切な角度で調節されていること
	ペダル	ガタつきや歪みがなくスムーズ回転すること
	クランク	ひび割れ・歪み・ガタつきがないこと
	チェーン	ゆるみすぎでないこと (極端にゆるみを感じられる場合は巻末に記載のカスタマー サービス部にご連絡ください)
	ブレーキ	(前輪後輪とも) 正常に機能していてブレーキパッドに摩耗がないこと (ブレーキパッドは消耗品です。ブレーキパッドが薄くなっている場合は巻末に記載のカスタマー サービス部にご連絡ください)
	タイヤ	(前輪後輪とも) 適切な空気圧になっていること・パンクしていないこと・極端にすり減っていないこと
	スポーク	(前輪後輪とも) 歪み・曲がり・折れがないこと
	バルブキャップ	(前輪後輪とも) ゆるみなくしっかりとバルブに固定されていること
	モーター	(走行時に) 異音・異常加熱・発煙していないこと
	保護カバー	充電端子部の保護カバーが確実に被さっていること

# 乗りかた

乗りかたはほとんど一般的な自転車と同様ですが、電動アシストシステム搭載自転車独特の操作、注意事項があります。

また、あらかじめ以下の各点についてご確認ください。

- 本製品にはスタンドは付属していません。自転車が自立しませんので、必要に応じて自転車用のスタンドをご購入いただき、本製品に取り付けてください。
- 防犯のため、ワイヤ錠などをご使用ください。本製品には、本製品の盗難を防止するための鍵は付属していません。
- 本製品には前照灯が付属していません。夜間の走行のためには前照灯の灯火が義務付けられています。市販の自転車用の前照灯をお買い求めいただき、本製品に取り付けてください。
- ヘルメットの着用を推奨いたします。地域や自治体によってはヘルメットの着用が義務化されている場合があります。
- 防犯登録を行ってください（法律で義務付けられています）。
- 必ず走行前点検を行ってください。

## 01

ワイヤ錠等（別売）の鍵を外してください。

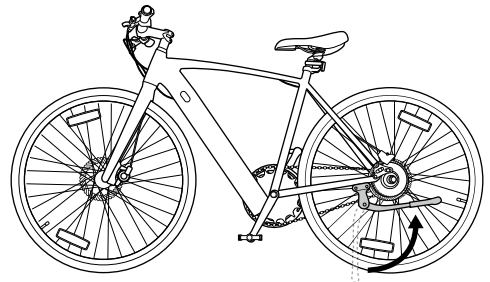
## 02

スタンド（別売）を取り付けた場合は、スタンドを上げて走行可能な状態にしてください。



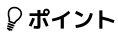
**警告**

スタンドを立てたまま走行すると、スタンドが破損したり、スタンドが地面や他のものにあたるなどして自転車が転倒するおそれがあります。



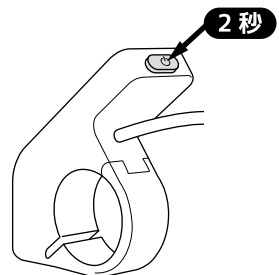
## 03

ペダルを踏まず（動かさずに）にディスプレイの電源を入れます。



**ポイント**

ペダルを動かした状態で電源を入れると、アシスト力が弱くなるなど、電動アシストシステムが正常に機能しない場合があります。そのような場合はディスプレイの電源を入れなおしてください。



## 04

アシストレベルの切り替えや、バッテリー残量の確認などはディスプレイで行います。操作方法については「ディスプレイ」の項目を参照してください。

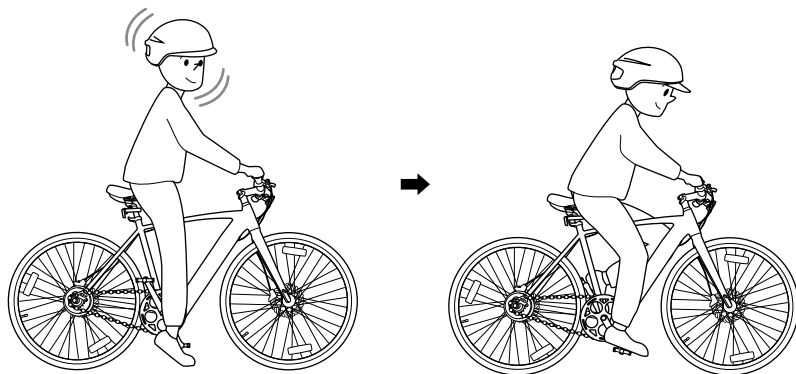


**ポイント**

走行中にアシストが不要になった場合、ディスプレイの電源を切らずに、ディスプレイを操作してアシストレベルを 0 に切り替えてください。

## 04

サドルに座り、前後左右の安全を確認してからペダルを踏んで発進します。ペダルを踏み込むと電動アシストシステムが働きます。



### 警告

サドルに跨ってから発進すること。いわゆる「けんけん乗り」をしないでください。サドルに座らずに片足でペダルを漕ぎながら助走を付けて自転車に飛び乗る「けんけん乗り」を行うと、アシストシステムが必要以上に働き、自転車が急発進してしまいます。転倒、接触などの重大な事故につながるおそれがあります。



### ポイント

- 操作に慣れるまでは、人通りや車の少ない安全な場所で走行してください。
- 発進直後や勾配の変化がある場合はアシスト力が変化しますので注意してください。
- 停車中は、ペダルを踏まずに左右（前後）のブレーキを掛けておいてください。
- 携行または自転車に取り付けた、他の電子機器はディスプレイに干渉する場合があります。走行中に異音や異常を感じた場合は、本製品の使用を中止して本書末尾に記載の弊社「カスタマーサービス部」までお問合せください。

## 05

駐輪する場合は、定められた駐輪スペースに止め、施錠しディスプレイの電源を切っておいてください。

## バッテリーについて

本製品のバッテリーは、目安として満充電した状態でおよそ 60km 走行可能ですが、使用状況や環境によって走行可能距離は長くなったり短くなったりします。

### [ 走行可能距離が短くなる状況と環境 ]

- 冬季（寒い環境ではバッテリーの性能低下が激しくなります。特に外気温が摂氏 5℃を下回ると極端にバッテリーの性能が低下します。使用時以外は暖かい室内に置くなどしてください。）
- 坂道が多い場合
- 向かい風が強い場合
- 走行速度が速い場合（急加速もバッテリーをより消耗します）
- 積載重量が大きい場合
- ストップ・アンド・ゴーの多い環境（停止、発進を繰り返すとバッテリーがより多く消費されます）
- 路面状態が悪い場合
- タイヤの空気圧が低い場合（走行時の抵抗が増えてバッテリーがより多く消費されます）

バッテリーは自然放電します。満充電していても、そのまま放置すると徐々にバッテリーの残量が減っていきます。ご使用になる直前にバッテリーを充電するか、またはディスプレイでバッテリーの残量が充分に残っていることを確認してから使用してください。

### [ バッテリーの寿命 ]

バッテリーは消耗品です。使用環境によっては短時間で満充電時のバッテリー容量が大きく減少することがあります。バッテリーの充電量の減り方が極端に増えた場合はバッテリーの交換が必要となります。

ただし、極端に寒い環境などでは、バッテリーの寿命とは関わりなくバッテリーの消耗が早くなります。ただしこの場合は、外気温が高くなればバッテリーの性能は元に戻ります（元に戻った状態でも消耗が早くなっている場合はバッテリーの寿命です）。

本製品のバッテリーはフレームに内蔵されています。バッテリーの交換には専門知識が必要となりますので、本書末尾に記載の弊社「カスタマー サービス部」までお問合せください。

**⚠ 警告** バッテリーを改造しないでください。感電、発火、爆発のおそれがあります。

### [ 長期間使用しない場合の保管 ]

放置期間が長く使用頻度が低い場合、バッテリーが劣化して寿命が短くなります。

また、高温になる場所などに保管した場合もバッテリーが劣化して寿命が短くなります。

劣化を抑えるため、半年に一度はバッテリーを半分程度まで充電しておいてください。



## チャイルドシートについて

本製品には、自転車用のチャイルドシートを取り付けないでください。

**⚠警告** 転倒、故障のおそれがあります。

### こんな場合には

#### ●転倒した場合

前輪部、後輪部、フレーム、ハンドルに歪みが生じていないか、ブレーキ、電動アシストシステムに異常がないかを確認してください。これらの異常が生じた場合は、本製品の使用を中止してください。

#### ●パンクした場合

走行が安定しなくなるばかりか、車輪のリムを損傷するおそれがあります。自転車から降りて押し、最寄り自転車販売店でパンク修理を行ってください。

#### ●交通事故が発生した場合

負傷者がいる場合は、直ちに応急処置を行ってください。負傷者の有無に関わらず、事故が発生した場合は自らの判断で事故処理を行わず、警察に通報して警察官の指示に従ってください。

#### ●公共交通機関を利用したい

移動のため、電車、バス、飛行機、船などに本製品を乗せる場合、本製品に用いられているリチウムイオンバッテリーの持ち込み、取り扱いに一定の制限が加えられている場合があります。本製品を公共交通機関で移動（輸行）する場合は、あらかじめ利用しようとする機関にお問い合わせください。

# 6. お手入れと保管

## 日常のお手入れ

- 乾いた布、ブラシで自転車に付着した泥、土、ほこりを落としてください。
- 落ちにくい汚れには、薄めた中性洗剤（台所用洗剤）を含ませてよく絞った布で汚れを落としてください。
- 雨にあたるなどして濡れた場合は、サビがでないように水気をよくふき取ってください。
- 海辺などのサビの発生しやすい場所で使用、保管する場合は、より頻度を上げてお手入れしてください。

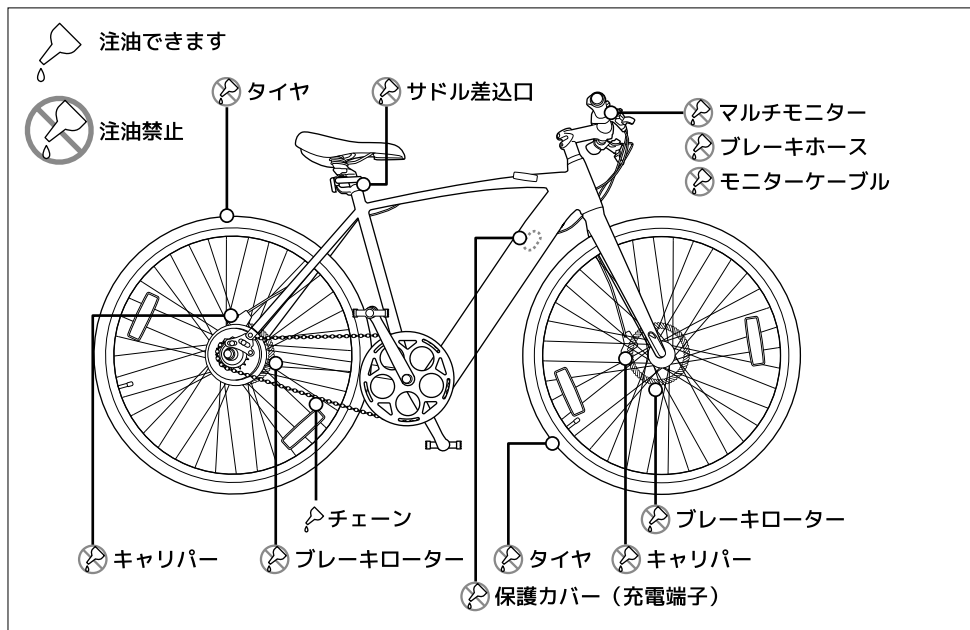
### ⚠ 注意

シンナーなどの有機溶剤は、樹脂部分、被膜部分、自転車本体を傷めるおそれがありますので、使用しないでください。

本製品は雨天でも走行可能なように一定の防水処理はなされていますが、直接水を掛けてのお手入れは避けてください。

## 注油について

必ず自転車用油を使用してください。その他の油類は種類によっては自転車の性能に悪影響をおよぼすおそれがあります。また注油禁止の箇所もありますので、下図を参照して注油してください。





自転車の制動性能に影響を与えますので、絶対にブレーキディスク、キャリパー（ブレーキパッド）には注油しないでください。

ショート、発火のおそれがありますので、充電端子部には絶対に注油しないでください。



ほこり、汚れを付着させますので、注油時の余分な油はふき取ってください。

ひび割れの原因となりますのでタイヤに油が付着した場合はすぐにふき取ってください。

劣化、変質、破損、割れのおそれがありますので、充電端子の保護カバー、樹脂部分、ホースの被膜、ケーブルの被膜、リフレクターに油が付着した場合はすぐにふき取ってください。

## 保管について

- 安定した直接雨風のあたらない場所で保管してください。
- 風通しがよく、湿気の少ない場所で保管してください。
- 直射日光があたらない場所で保管してください。
- タイヤの空気圧が低い状態で保管すると、タイヤのひび割れ、劣化のおそれがあります。保管時にはタイヤの空気圧を確認し、正常値にしておいてください。



水の侵入する場所で、本製品を横倒しにして保管しないでください。水分がフレーム内に侵入し、バッテリー、電動アシストシステムの故障やショート、発火のおそれがあります。

## 廃棄について

本製品はバッテリーを内蔵した電動アシスト付き自転車です。お住まいの自治体の定めるルールに従って正しく廃棄してください。

## 定期的な点検

自転車には消耗部品が多く使用されています。使用状況にもよりますが、定期的に点検を行い、安全な使用を心がけてください。

目安として、ご購入後は2ヵ月程度使用してから、それ以降は半年に1回程度は点検を行うようにしてください。より安全にお乗りいただくためには、お近くの自転車販売店にて点検についてご相談ください。

部位	点検の内容
フレーム	歪み、変形、ひび割れがないか
ハンドル	曲がりがないか／左右中央に調節されているか／ゆるみがないか／グリップのゆるみがないか／角度適切になっているか
前輪・後輪	歪み、変形がないか／前輪の固定は確実に行われているか／ガタツキがないか／スムーズに回転するか
タイヤ	切傷、摩耗がないか／空気圧が適切か
ペダル	確実に固定されているか／軸のゆがみがないか／ペダルがスムーズに回転するか／クランクに変形や損傷がないか／クランクがスムーズに回転するか
ブレーキレバー	前輪、後輪それぞれ確実にブレーキレバーの操作で停止するか／あそびの幅が適切か／ブレーキホースに異常がないか
キャリパー	ブレーキパッドがしっかりと残っているか／制動力は適正か
ブレーキディスク	歪み、変形がないか／油などの潤滑性のある物質が付着していないか
チェーン	たるみがないか／油は適切に差されているか
サドル	正しい向きで固定されているか／しっかりと固定されているか／高さは適切に調節されているか
ベル	正常に動くか／警告に十分な音量が出るか
充電器	付属のケーブルを含め破損、変形がないか／充電時に発煙等していないか／スパークしていないか
バッテリー	劣化していないか／充電時に異常（異常な高温・異臭・発煙）がないか
ディスプレイ	液晶画面に破損がないか／正常に機能しているか
その他	ネジ、ボルト類にゆるみがないか／走行時に異常がないか／外観上の異常がないか





---

## ●商品に関するお問合せは

### 株式会社ムサシ

〒675-1201  
兵庫県 加古川市 八幡町宗佐 1440

カスタマーサービス部  
[info@musashivelo.com](mailto:info@musashivelo.com)

本製品へのお問い合わせは、現在電子メールでのみ受け付けております。

左記の電子メールアドレスまでお問合せください。  
お問い合わせへの対応は、土曜日曜祝日および弊社休業日を除きます。

また、お問い合わせの内容等によっては、対応に多少のお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

